D00964301A

TASCAM
TEAC Professional Division

CC-222SL

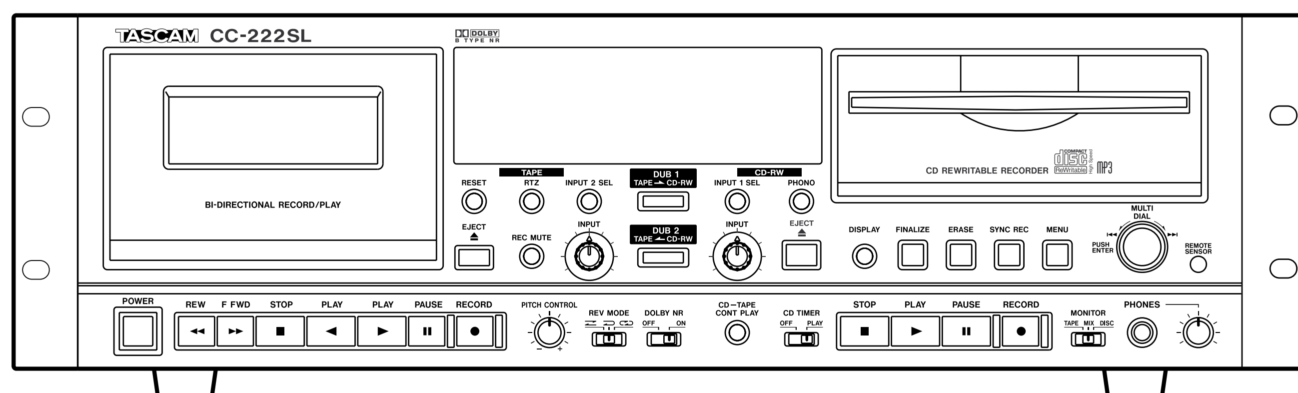
CD Recorder/Cassette Deck

Professional

取扱説明書

COMPACT disc ReWritable High Speed

MP3



安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告



万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。



万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。



この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。



この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。



電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。



電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。



この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。



この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告



万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10 cm以上のすきまを空けてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠注意



オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。



電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。



次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所



電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



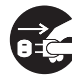
電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



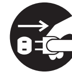
この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。



移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。



この機器には、付属の電源コードセットをご使用下さい。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。



付属の電源コードセットを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

はじめに

このたびは、TASCAM CC-222SLをお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱い方法をご理解いただいた上で、充分に機能を発揮させ末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本機について

CS-222SLはCDレコーダーとカセットテープレコーダーを搭載し、デジタルのコンパクトディスクとアナログのカセットテープ間の相互ダビングを手軽に行なうことができます。

また外部のアナログおよびデジタル機器を接続することができますので、外部ソースの録音も可能です。

さらにアナログレコードプレーヤー接続用のフォノ入力も装備していますので、レコードからCD-Rディスクやカセットテープへのダビングも簡単にできます。

カセットレコーダー部はTASCAM伝統の技術を生かした高性能／高音質設計で、ドルビーノイズリダクションシステムを搭載しています。

CDレコーダー部には24ビットのA/DおよびD/Aコンバーターを搭載し、さらにサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、44.1kHz以外のサンプリングレートのデジタルソースをCDに録音することもできます。

ディスクのトラックの番号付けは手動と自動の両方で可能です。自動の場合、本機が無信号入力を検出して番号をインクリメントします。

必要に応じて、設定した時間によるフェードイン／フェードアウトをワンタッチで行なうことができます。

パラメータ設定には多機能のマルチダイアルを使用します。

ワイヤレスリモコンは遠隔操作を可能にするだけでなく、追加機能を備えています。

目次

構成

本製品の構成は以下の通りです。

- RC-222SL リモートコントロールユニット（× 1）
- リモートコントロールユニット用単三電池（× 2）
- AC コード
- ラックマウントビスキット（ビス４本、ワッシャー４本）

取扱説明書の表記

この取扱説明書では以下のようなルールで表記します。

● XXX
選択可能な値を表します。
例： **SRC> XXX**（ON/OFF を選択可能）

● [ ]
ディスプレイのインジケーターを表します。
例：［ **RANDOM** ］

● “ ”
ディスプレイに表示される文字を表します。
例： “ **TOC Reading** ”

設置上のご注意

- 本機の動作保証温度は５度〜 35 度です。
- 本機は水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。

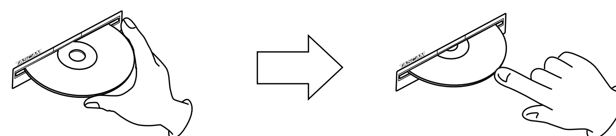
結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約１ 〜 ２時間放置した後、電源を入れてお使いください。

ご注意

音楽、映像、コンピュータプログラム、データベース等の著作物は、著作権法その他の法規、または、お客様との間で締結される使用許諾契約に基づき、その複製や使用について制限されることがあります。複製等をされる前に、著作物毎の条件を充分ご確認の上、本装置を適正にご使用くださいますようお願いいたします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担いたしません。

スロットインタイプのディスクの挿入



1. 図のようにレーベル面を上にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。
2. さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

ディスク使用上のご注意

- 録音には以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

CD-R





CD-RW

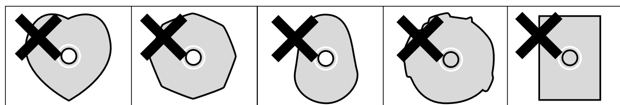






- ディスクは、必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。
- 信号録音面(レーベルがない面)には触れないでください。指紋や脂などが付着していると、録音するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。
  ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタル CD のシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販の CD 用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。

- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のCDは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。



- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらはCD規則に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。。
- CD-RやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RとCD-RW

CD-Rディスクには、一度だけしか録音できません。録音したトラック（曲）を消去することもできません。
ただし、ディスクの録音可能時間が残っている場合は、追加録音することができます。録音が終わったCD-Rをファイナライズすると、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります(一部のCDプレーヤーでは再生できないことがあります)。

CD-RWディスクは、録音可能時間がいっぱいになっても、録音した曲を消去すれば繰り返し使用することができます。
ただし消去できるのは、指定した曲から最後に録音した曲までです。途中の曲だけを消去することはできません。
CD-RWは、CD-RWに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

ファイナライズとは

音声データをCD-RやCD-RWディスクに録音しても、最終的なTOC*をディスクに記録しなければ、一般のCDプレーヤーで再生することはできません。
TOCを記録することをファイナライズといいます。
ファイナライズしたディスクには、録音することができません。ただしCD-RWの場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。(22ページ)

*TOC : Table of Contents＝録音したデータの情報

OPCについて

*OPC＝Optimum Power Control

OPCとは録音するディスクの特性に合わせてレーザーパワーを調整することです。停止状態から録音待機状態にする時に行われます。OPCを行っている間は「Now OPC」と表示されます。

カセットテープについて

使用テープ

録音可能テープ：タイプI （ノーマル）
タイプII （ハイポジション／クローム）

再生可能テープ：タイプI （ノーマル）
タイプII （ハイポジション／クローム）
タイプIV （メタル）

録音防止用つめ

誤って録音内容を消してしまうミスを防ぐために、録音防止用のつめがあります。つめはカセットのA(1)面、B(2)面用にそれぞれあります。ドライバーの先などで折って取り除くと、録音防止装置が働いて録音ができません。
再度、録音をしたいときは、セロハンテープを貼ってつめ穴をふさいでください。

テープの「たるみ」

ご使用の前に、カセットのテープがたるんでいないか確かめてください。テープがキャプスタンなどに巻き込まれることがあります。鉛筆などでたるみを巻取ってください。

テープの自動検出孔について

カセットにはテープ自動検出孔がついています。本機では、テープの種類を自動検出します。

お勧めできないカセットテープ

次のようなカセットテープを使用すると、正常な動作や性能が得られないことがあります。またテープが巻込まれて思わぬトラブルを起こすこともありますので、ご注意ください。

- 形状精度の悪いカセットテープ
  カセットが変形していたり、テープの走行が不安定なもの、早送り、巻戻し中に異音を生ずるカセット。
- 長時間テープ
  90分を越えるテープは、大変薄くて伸びやすいため、ワウ・フラッターの原因ともなります。また、テープが機械に巻き込まれることがありますので、ご注意ください。

取扱い上のご注意

- カセットを開けたり、テープを引出したりしないでください。
- テープの磁性体コーティング面に直接手を触れないでください。
- ゴミやホコリの多い場所に放置しないでください。
- 高温・多湿の場所での使用、保管は避けてください。
- 強磁場での使用、保管は避けてください。雑音が入ったり、録音内容が消えてしまうことがあります。

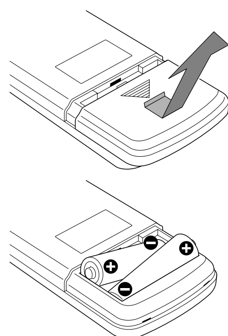
リモコンについて

ご使用上のご注意

- リモコンは本体右端のREMOTE SENSORに向けて操作してください。
- 長い間(一ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐために電池を取り出してください。もし液もれを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- 赤外線によりコントロールする他の機器を使用時に、本機のリモコンを操作すると、その機器を誤操作させることがあります。

電池の入れ方

1. 裏側のふたを開ける。
2. ⊕、⊖の向きに注意して、単３電池を２本はめ込む。
3. ふたを閉める。



電池の交換時期は…

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、２本とも新しい電池に交換してください。

電池についてのご注意

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。電池の注意表示をよく見てご使用ください。

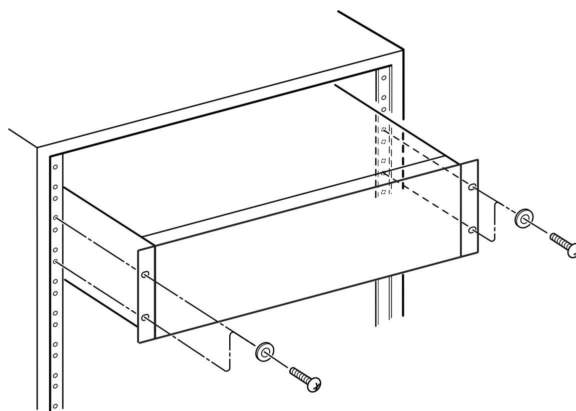
1. 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースの指示どおりに正しく入れてください。
2. 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
3. 乾電池には、同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
4. 乾電池は絶対に充電しないでください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。
化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛める原因となります。

ラックマウントについて

- ラックにマウントする場合は、付属のラックマウント用ビスを使って下図のように、取り付けてください。
なお、本機の上に1U以上のスペースを、後ろに10cm以上のスペースを開けてください。



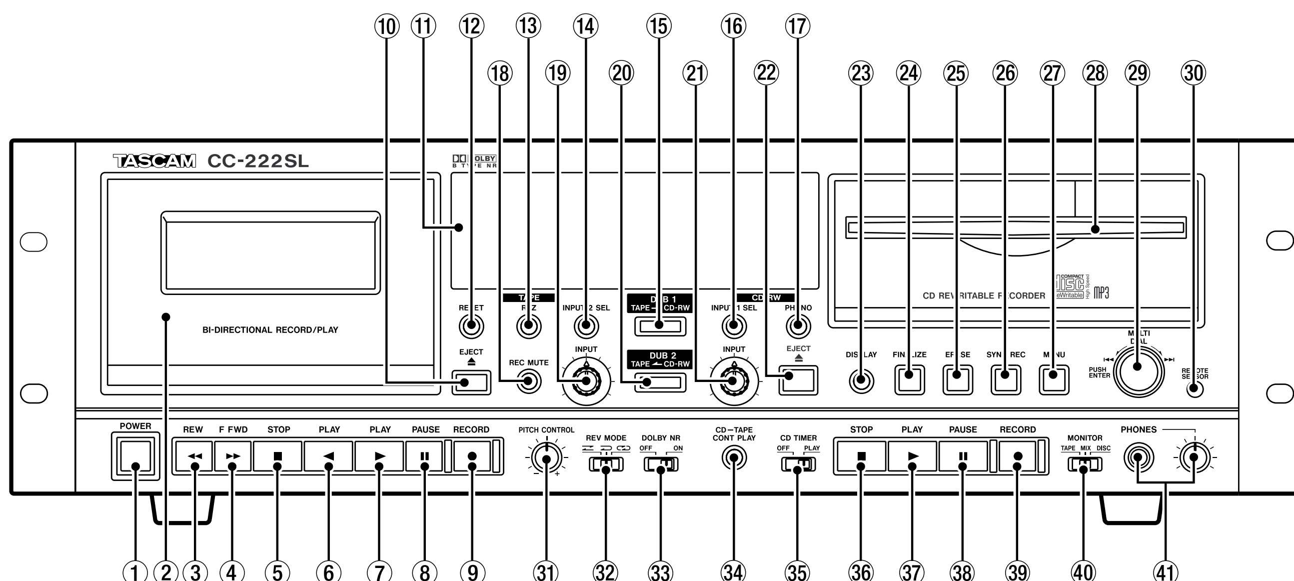
アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より１年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、業務用製品の場合は、保証期間内であっても使用1,000時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。

  - 型名、型番（TASCAM CC-222SL）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名

各部の名称と働き

フロントパネル



① POWERスイッチ
電源をオン／オフします。

② カセットホルダー
カセットテープを挿入します。テープ側を下にして挿入してください。
EJECTキーを押すとホルダーが開きます。閉じるときは手で軽く押します。

③ REWキー
カセットテープを巻き戻します。再生中にこのキーを押すと、逆方向のサーチを行ないます。

④ FFWDキー
カセットテープを早送りします。再生中にこのキーを押すと、正方向のサーチを行ないます。

⑤ STOPキー（カセットレコーダー側）
カセットテープを停止します。

⑥ PLAY（◄）キー（カセットレコーダー側）
カセットテープをリバース方向に再生します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

⑦ PLAY（►）キー（カセットレコーダー側）
カセットテープをフォワード方向に再生します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

⑧ PAUSEキー（カセットレコーダー側）
再生や録音を一時停止します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

⑨ RECORDキー（カセットレコーダー側）
停止時に押すと録音待機状態になります。

⑩ EJECTキー
カセットホルダーを開きます。

⑪ ディスプレイ
トランスポート状態、選択中の入力ソース、録音／再生信号レベル、メニューなどを表示します。

⑫ RESETキー
テープカウンターをゼロにします。

⑬ RTZキー
テープをカウンターゼロポイントにロケートします。

⑭ INPUT 2 SELキー
カセットレコーダーの入力ソース（LINE2またはDISC）を選択します。

⑮ DUB 1 TAPE ➞ CD-RWキー
このキーを押すとカセットテープからCD-R/CD-RWディスクへの自動ダビングが始まります。［ ➞ 31ページ「テープをCDにダビング」］

⑯ INPUT 1 SELキー
CDレコーダーの入力ソース（OPTICAL、COAXIAL、LINE1、PHONO、TAPE）を選択します。

⑰ PHONOキー
PHONO端子に入力されるレコードプレーヤーの再生信号をCDやテープに録音することができます。メニューを使ってCDとテープのどちらに録音するかを選択します。
［ ➞ 23ページ「アナログレコードをCDにダビング」］
［ ➞ 29ページ「アナログレコードをテープにダビング」］

⑱ REC MUTEキー
カセットテープ録音中にこのキーを押すと、約4秒間の無信号録音を行なった後に録音待機状態になります。

⑲ INPUTつまみ（カセットレコーダー側）

カセットレコーダーの入力レベルを調整します。メニューのDUB>VOL項目をTHRUに設定しておくと、ディスクからの自動ダビング時にこのつまみが働きません。

⑳ DUB 2 TAPE ← CD-RWキー

このキーを押すとディスクからカセットテープへの自動ダビングが始まります。[→ 32ページ「CDをテープにダビング」]

㉑ INPUTつまみ（CD側）

CDレコーダーの入力レベルを調整します。メニューのDUB>VOL項目をTHRUに設定しておくと、テープからの自動ダビング時にこのつまみが働きません。

㉒ EJECTキー

ディスクを排出します。

㉓ DISPLAYキー

ディスプレイに表示するディスクの時間モードを切り換えます。

㉔ FINALIZEキー

ディスクをファイナライズするときに使います。

㉕ ERASEキー

CD-RWディスクのデータを消去するときに使います。

㉖ SYNC REC キー

シンク録音モードをオン／オフします。

㉗ MENUキー

メニューを表示します。

㉘ ディスク挿入口

ディスク（CD, CD-R, CD-RW）を入れます。

㉙ MULTI DIAL （マルチダイアル）

ディスク停止中、メニュー操作の際にこのダイアルを回して選択肢を選びます。また操作の確認表示がディスプレイに現れた場合、このダイアルを押すと「実行」します。
ディスク再生中、トラックスキップを行ないます。
ディスク録音中、録音トラック数の表示、指定を行ないます。

㉚ REMOTE SENSORウィンドウ

リモコンからの赤外線信号を受信します。リモコン使用時は、このウィンドウに向けて操作してください。またこのウィンドウはブロックしないようご注意ください。

㉛ PITCH CONTROLつまみ

テープスピードを± 10%の範囲で調整することができます。

㉜ REV MODEスイッチ

テープ走行モードを、片方向（⇄）、両方向（⊐）、連続（⊂⊃）（再生のみ）、の中から選択します。録音と再生の両方に働きます。

㉝ DOLBY NR（OFF/ON）スイッチ

カセット録音／再生時のドルビーB ノイズリダクションのオン／オフを選択します。

㉞ CD-TAPE CONT PLAYキー

ディスクとテープの連続再生モードのオン／オフを行ないます。

㉟ CD TIMER（OFF/PLAY）スイッチ

CDタイマーの設定を行ないます。PLAY側に設定しておくと、ディスクをセットした状態で本機の電源を入れたときにCDが自動的に再生を始めます。

㊱ STOPキー（CD側）

録音や再生を停止します。

㊲ PLAYキー（CD側）

再生を開始します。録音待機時／再生一時停止時にこのキーを押すと、録音／再生を開始します。

㊳ PAUSEキー（CD側）

録音や再生を一時停止します。
録音待機時／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

㊴ RECORDキー（CD側）

録音待機状態にします。
DISCが入っていないときは入力モニターモードになります。
録音時に押すと、トラックをインクリメントします。

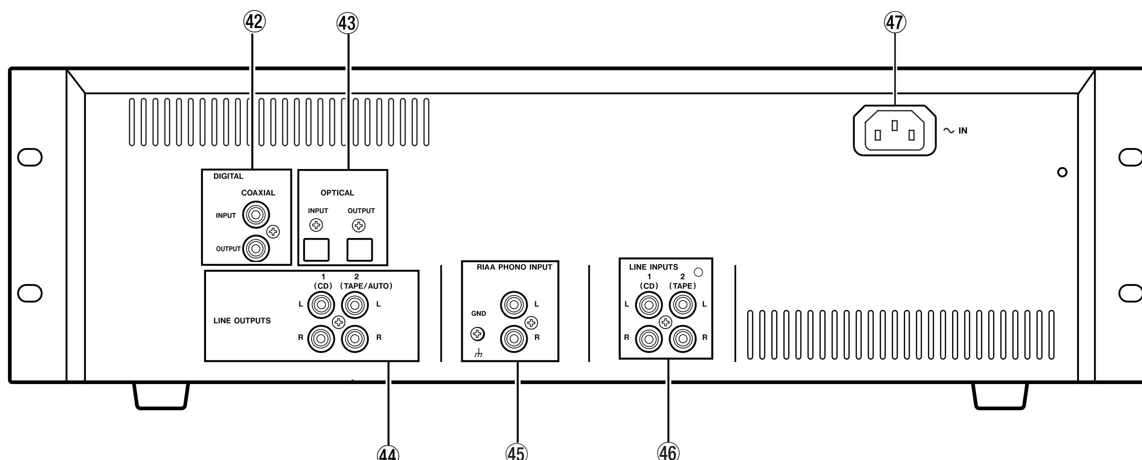
㊵ MONITOR（TAPE/MIX/DISC）スイッチ

ヘッドホン出力のソースを選択します。カセットレコーダー、CDレコーダーまたは両方のミックスの中から選択できます。

㊶ PHONES 端子／つまみ

ステレオヘッドホンを接続します（6 φ標準ジャック）。
右側のつまみでヘッドホンの音量を調整します。

リアパネル



㊷ DIGITAL COAXIAL（INPUT/OUTPUT）端子

㊸ DIGITAL OPTICAL（INPUT/OUTPUT）端子

それぞれIEC60958 TypeII （S/PDIF ）のデジタル入力／出力端子です。入力信号はCDレコーダーのソースになることができます。また出力端子からはCDレコーダーの再生信号が出力されます。

入力段にサンプリングレートコンバーターを内蔵していますので、入力端子からはサンプリングレート32 kHz～48 kHzの範囲のデジタル信号を入力することができます。

㊹ LINE OUTPUTS L/R 1（CD)、2（TAPE/AUTO) 端子

1からはCDレコーダーの再生信号、2（TAPE/AUTO)からはカセットレコーダーの再生信号がアナログ出力されます。2はメニュー選択により、カセットレコーダーとCDの再生音を自動切り替え（カセットレコーダーの再生音が優先）で出力することもできます。
アンプなどの機器と接続します。

㊺ PHONO INPUT（L, R）端子／GND端子

アナログレコードプレーヤーを接続します。入力信号の送り先（CDレコーダーまたはカセットレコーダー）はメニューで選択します。
GND端子にはレコードプレーヤーのアース線を接続します。

メ モ

レコードプレーヤーをLINE INPUTS端子に接続しないでください。またライン出力の機器をPHONO INPUT端子に接続しないでください。

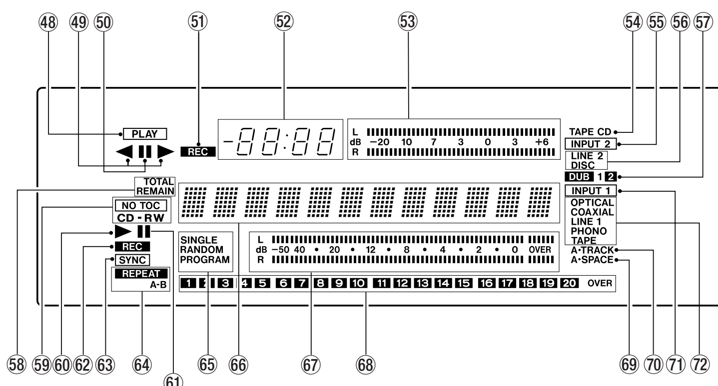
㊻ LINE INPUTS L/R1（CD)、2（TAPE) 端子

1にはCDレコーダーのアナログ入力ソース、2にはテープレコーダーのアナログ入力ソースを接続します。

㊼ AC IN端子

付属の電源コードを接続します。

ディスプレイ



㊽ PLAY

テープが再生/録音中に点灯します。

㊾ ディレクション（◀ ▶）マーク

テープの再生/録音時の走行方向が点灯します。

▶はフォワード方向、◀はリバース方向を示します。

㊿ PAUSE（❚❚）マーク

テープが再生一時停止中、または録音待機中に点灯します。

51 REC

テープに録音中、または録音待機中に点灯します。

㉜ テープカウンター

テープの走行（テープリールの回転）に合わせて変化します。リバース走行時は数字は減少します。0000～9999までカウントしますが、リバース走行時0000以下は9999に戻ります。またCPSの動作表示にも使用します。

㉝ レベルメーター

テープの再生レベル、録音入力レベルを表示します。

㉞ TAPE、CD

CD-TAPE CONT PLAY（CDとテープの連続再生）中の状態表示を行います。テープ再生中は**“TAPE”**が点滅し、ディスク再生中は**“CD”**が点滅します。

㉟ INPUT 2

通常は点灯しており、その下に表示される録音入力ソース表示マークがINPUT2に対する物で有ることを示しています。PHONOキーを使ったアナログレコードからの録音動作時のみ、テープへの録音かディスクへの録音かを示す機能になり、CD-RWへの録音中は消灯します。

㊱ LINE 2、DISC

INPUT 2（テープ）への録音入力ソースを表示します。

LINE 2：LINE2（ライン入力端子）に選択されているときに点灯します。

DISC　：DISC（ディスク再生出力との内部接続）に選択されているときに点灯します。

㊲ DUB 1 2

ダビング状態を表示します。

テープからCD-RWへダビングする時は、**"DUB"**と**"1"**が点灯します。

CD-RWからテープへダビングする時は、**"DUB"**と**"2"**が点灯します。

㊳ TOTAL、REMAIN

時間表示モードに合わせて**“TOTAL”**と**“REMAIN”**が点灯します。

両方とも消灯しているときは再生中のトラック内の経過時間表示モードになります。

㊴ ディスク情報マーク

TOCが書き込まれていないディスク（ファイナライズしていないディスク）は**“NO TOC”**が点灯します。CD-Rディスクが入っているときは**“CD-R”**が点灯します。 CD-RWディスクの場合は**“CD-RW”**が点灯します。

㊵ PLAY（►）マーク

ディスクが再生中に点灯します。

㊶ PAUSE（❚❚）マーク

ディスクが再生一時停止中、録音待機中に点灯します。

㊷ REC

CD-R/CD-RWディスクに録音中、録音待機中に点灯します。

㊸ SYNC

SYNC録音モードにすると点灯します。

㊹ REPEAT、A-B

リピートモードにすると**“REPEAT”**が点灯します。

A-Bリピートモードでは**“REPEAT”**と**“A-B”**が点灯します。A-Bリピートポイントを指定している途中（Bポイントが未定の状態）のときは**“A-B”**が点滅します。

㊺ SINGLE、RANDAM、PROGRAM

シングル再生モードでは**“SINGLE”**が点灯します。

ランダム再生モードでは**“RANDOM”**が点灯します。

プログラム再生モードでは**“PROGRAM”**点灯します。

通常の再生モードでは前記の3つのマークが全て消灯します。

㊻ キャラクター表示部

ディスクのトラック情報、時間情報、メニュー、メッセージを表示します。

㊼ レベルメーター

ディスクの再生レベル、録音入力レベルを表示します。

㊽ ミュージックカレンダー

再生可能なトラック番号が点灯します。トラック番号21以上は**“OVER”**が点灯します。再生が終了したトラック番号は消灯します。

㊾ A・SPACE

オートスペース再生モードにすると点灯します。

㊿ A・TRACK

オートトラック録音モードにすると点灯します。（オートトラック条件にTIMEを指定した場合のみ録音中に点滅します。）

(71) INPUT 1

通常は点灯しており、その下に表示される録音入力ソース表示マークがINPUT 1に対する物であることを示しています。PHONOキーを使ったアナログレコードからの録音動作時のみディスクへの録音かテープへの録音かを示す機能となり、テープへの録音中は消灯します。

(72) OPTICAL、COAXIAL、LINE 1、TAPE

INPUT 1（ディスク）への録音入力ソースを表示します。

OPTICAL：OPTICAL（光デジタル入力端子）が選択されているときに点灯します。

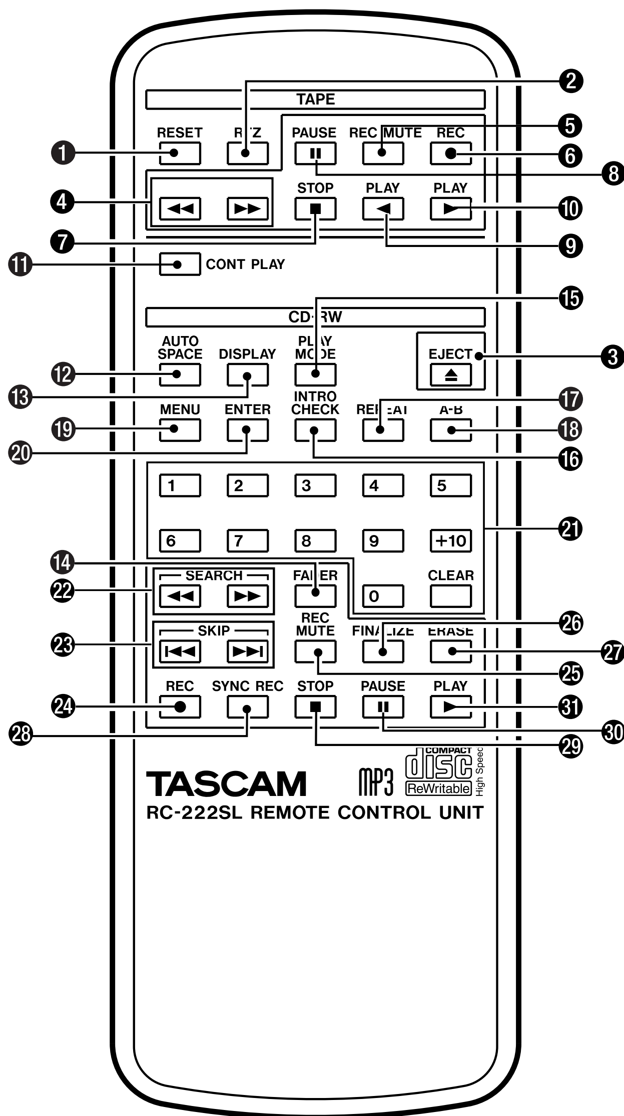
COAXIAL：COAXIAL（同軸デジタル入力端子）が選択されているときに点灯します。

LINE 1　：LINE 1（ライン入力端子）が選択されているときに点灯します。

PHONO　：PHONO（アナログレコード入力端子）が選択されているときに点灯します

TAPE　　：TAPEが選択されているときに点灯します。

RC-222SL（リモコン）



❶ RESETキー
テープカウンターをゼロにします。

❷ RTZキー
テープをカウンターゼロポイントにロケートします。

❸ EJECTキー
ディスクを排出します。

❹ ◀◀ キー／ ▶▶ キー
カセットテープを巻戻し／早送りします。再生中にこれらのキーを押すと、サーチを行ないます。

❺ REC MUTEキー
カセットテープ録音中にこのキーを押すと、約４秒間の無信号録音を行なった後に停止します。

❻ RECキー
停止時に押すと録音待機状態になります。

❼ STOPキー
カセットテープを停止します。

❽ PAUSEキー
カセットテープの再生や録音を一時停止します。
録音待機／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

❾ PLAY（◀）キー
カセットテープをリバース方向に再生します。

❿ PLAY（▶）キー
カセットテープをフォワード方向に再生します。

⓫ CONT PLAYキー
ディスクとテープの連続再生モードのオン／オフを行ないます。本体のCD-TAPE CONT PLAYキーと同じ働きをします。

⓬ AUTO SPACEキー
ディスクトラック再生時に、自動的にトラック間に約４秒の無音スペースを入れます。

⓭ DISPLAYキー
ディスプレイに表示するディスクの時間モードを切り換えます。

⓮ FADERキー
CDに録音をするとき、自動的にフェードイン／アウトを行ないます。フェードタイムはメニューで設定できます。

⓯ PLAY MODEキー
CDの再生モードを、通常の再生、１曲再生（シングル）、プログラム再生、ランダム再生の中から選択します。

⓰ INTRO CHECKキー
CDの各トラックの冒頭を10秒ずつ再生します。

⓱ REPEATキー
CDのリピートモードのオン/オフを行ないます。

⓲ A-Bキー
A-Bリピート区間の始点と終点を設定します。
A-Bリピート中に押すと、A-Bリピートモードを解除します。

⓳ MENUキー
メニューを表示します。

⓴ ENTERキー
操作の確認がディスプレイに表示された場合、このダイアルを押すと「実行」します（本体のMULTI DIALを押したときと同じ働きをします）。

㉑ テンキー（0〜10、＋10、CLEAR）

ディスク再生時のトラック番号入力に使います。

㉒ SEARCHキー

CDのサーチ（早戻し／早送り）を行ないます。

㉓ SKIPキー

メニューの選択肢を選んだり、CDトラックのスキップを行ないます（本体のMULTI DIALを回したときと同じ働きをします）。

㉔ RECキー

録音待機状態にします。

DISCが入っていないときは入力モニターモードになります。

録音中に押すと、トラックをインクリメントします。

㉕ REC MUTEキー

CD録音中にこのキーを押すと、約4秒間の無信号録音を行なった後に停止します。

㉖ FINALIZEキー

ディスクをファイナライズするときに使います。

㉗ ERASEキー

CD-RWディスクのデータを消去するときに使います。

㉘ SYNC REC キー

シンク録音モードをオン／オフします。

㉙ STOPキー

録音や再生を停止します。

㉚ PAUSEキー

録音や再生を一時停止します。

録音待機時／再生一時停止時は、録音／再生を開始します。

㉛ PLAYキー

再生を開始します。録音待機中にこのキーを押すと録音を開始します。

メニュー

本機はメニューシステムを使って各種初期設定を行ないます。

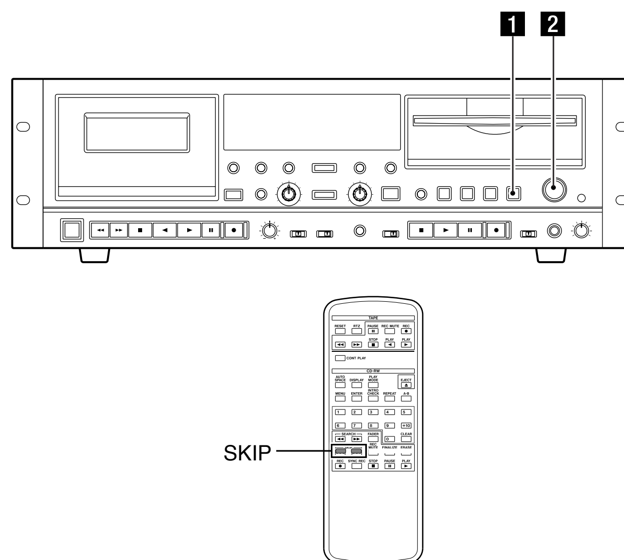
本機のメニューと初期設定は以下の通りです。

表示	意味	初期設定	参照ページ
SRC	サンプリングレートコンバータ	ON	→21ページ
VOLUME	ボリューム	0dB	→20ページ
A_TRK	オートトラックインクリメント	LEVEL	→25ページ
A_TIME	タイムトラックインクリメント	1min	→25ページ
S_LVL	サウンドレベル	−24dB（アナログ）−54dB（デジタル）	→23ページ
COPY ID	コピーID	1GEN	→27ページ
FADE IN	フェードインタイム	3s	→26ページ
FADE OUT	フェードアウトタイム	3s	→26ページ
DUB>VOL	ダビング時のボリュームコントロール	VOL THRU	→33ページ
PHONO	PHON入力時の録音先	DISC	→23ページ →29ページ
MP3 DIR	MP3のディレクトリ	OFF	→18ページ
OUT 2	LINEOUTPUTS 2端子の出力信号選択	TAPE	→30ページ

メ モ

◇メニューの設定値およびINPUT 1/2 SELの設定は、バックアップされます。

メニューへのアクセス



1 MENUキーを押して希望するメニューを表示します。

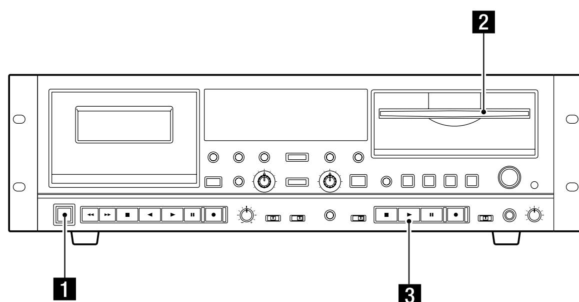
2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを押して、設定値を選択します。

メニューを抜けるときは、ENTERキーを押します。または、MENUキーを何度か押して通常表示（カウンター表示）に戻します。

CDの再生

基本的な再生

本機のCDレコーダーは、通常の（ファイナライズ済みの）CD、CD-R、CD-RWディスクの他に、ファイナライズしていないディスクも再生することができます（通常のCDプレーヤーではファイナライズ済みのディスクしか再生できません)。



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 ディスプレイに"NO DISC"と表示されている状態でディスクを挿入します。

- "TOC Reading"を表示した後、ディスクの種類、総トラック数、総再生時間を表示します。
- トラック番号を示すインジケーターがディスプレイの下側に、最大20まで点灯します。ディスクの総トラック数が20以上の場合は［OVER］が点灯します。
- ディスクの種類は以下のように表示されます。

  CD： 市販のCD
  CD-R： CD-R
  CD-RW： CD-RW
  NO TOC： ファイナライズしていないCD-RまたはCD-RW

3 PLAYキーを押して再生を始めます。

- 再生が終了したトラックのインジケータが消えます。

再生を止めるには

STOPキーを押します。

再生を一時停止するには

PAUSEキーを押します。
もう一度PLAYキーまたはPAUSEキーを押すと、再び再生が始まります。

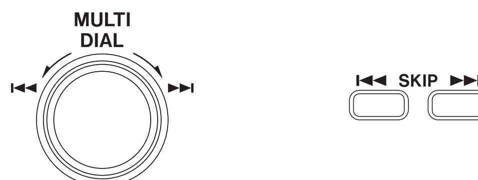
ディスクを取り出すには

EJECTキーを押します。
再生を停止してディスクを排出します。

サーチ

トラックスキップ

本体のMULTI DIAL ㉙を右左に回すと、フォワード方向／リバース方向にトラックがスキップします。
リモコンでは、SKIPキー㉓を使います。



メ モ

◇再生状態から操作すると、スキップ後再生を再開します。

◇プログラムモード再生中は、プログラムした曲の中でスキップを行います。

◇停止状態でトラックを選んだ場合は、その状態ではまだ何も動作しません。希望のトラック番号が表示されている状態でPLAY/PAUSEキーを押してください

◇ディスクの最初のトラックでMULTI DIALを左に回すと、最後のトラックにスキップします。最後のトラックでMULTI DIALを右に回すと、最初のトラックにスキップします。

テンキー

リモコンのテンキーを押すと、ダイレクトにトラックを選択できます。

例

トラック5： 5
トラック15： +10⇒5
トラック23： +10⇒+10⇒3

また、プログラムモードでは、プログラムの設定にテンキーを使います。

ご注意

◇ランダム再生モードでは操作できません。

◇存在しないトラックは受け付けません。

サーチ

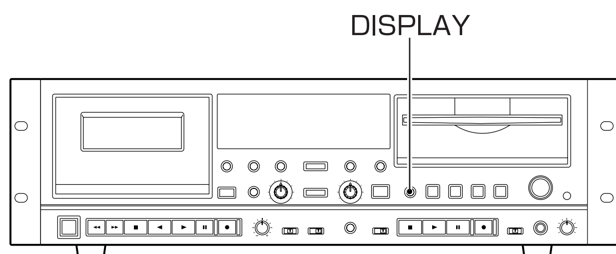


リモコンのSEARCHキー㉒を押し続けると、フォワード方向／リバース方向にディスクをサーチします。

ご注意

◇MP3ディスクでは、サーチは行えません。

時間表示



４種類の時間表示モードがあります。
DISPLAYキーを押して表示モードを切り換えます。
停止中はTOTAL表示に固定されます。

[表示なし] ： 現在のトラックの経過時間を表示します。

[REMAIN] ： 現在のトラックの残り時間を表示します。

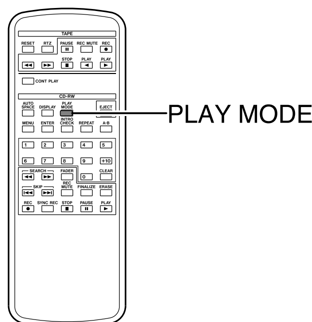
[TOTAL] ：ディスクの経過時間を表示します。

[TOTAL REMAIN] ：
ディスクの残り時間を表示します。

メ モ

◇プログラムモードでは、ディスク全体ではなくプログラム全体の経過時間と残り時間を表示します。

再生モードについて



本機には４つの再生モードがあります。
停止中にリモコンのPLAY MODEキーを押して再生モードを切り換えることができます。

選択中の再生モードがディスプレイに以下のように表示されます。

"Continue"： 通常の再生（ディスクの最後のトラックまでをトラック順に再生）

"Single"： 選択したトラックを再生後に停止

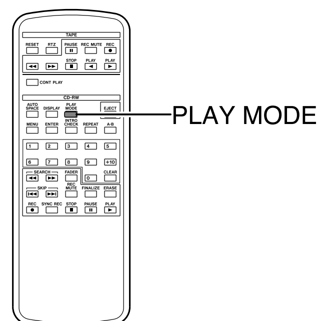
"Random"： ランダムに再生
[→ 15ページ「ランダム再生モード」]

"Program"： プログラム順に再生
[→ 15ページ「プログラム再生モード」]

● 電源を入れた時は、Continue（通常の再生）モードになります。

ランダム再生モード

トラック（曲）をランダムに再生します。



1 リモコンのPLAY MODEキーを押してランダム再生モードにします。[RANDOM]が点灯します。

2 PLAYキーを押すとランダム再生が始まります。

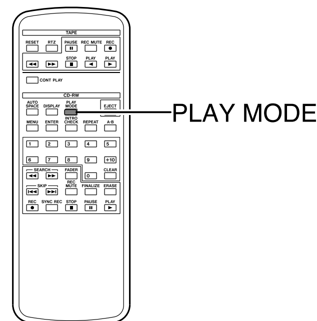
● ランダム再生中にMULTI DIALを右に１回回すと、次のトラックがランダムに選択されます。

3 ランダム再生を停止するときは、STOPキーまたはEJECTキーを押します。

ご注意

◇ランダム再生モードのときは、スキップ及びサーチにより前のトラックに戻すことは出来ません。

プログラム再生モード



最大99トラック（曲）までプログラムを組んで再生することができます。

1 停止中にリモコンのPLAY MODEキーを押してプログラム再生モードにします。[PROGRAM]が点灯します。

2 リモコンのテンキーを使ってトラック番号を入力します。プログラムしたいトラックを続けて入力することができます。

3 PLAYキーを押してプログラム再生を始めます。

ご注意

◇プログラム再生中はランダム再生はできません。

◇再生中はプログラムモードへ切り換えられません。
プログラムモードへの切り換えは停止時に行います。

メモ

◇MULTI DIALを使ってプログラムすることもできます。
MULTI DIALを回してトラックを選び、MULTI DIAL(ENTER)を押すとプログラムできます
なお、再生中はMULTI DIALを回すとトラックをスキップします。

◇プログラムできるのは99曲までです。それ以上をプログラムしようとすると、エラーメッセージ"PGM Full!"が表示されます。

◇プログラムした曲の合計時間が100分以上になると、"--:--"が表示されます。

プログラムに曲を追加するには

リモコンのテンキーを使って追加したいトラック番号を入力します。プログラムの最後に入力したトラックが追加されます。

プログラムの一部を削除するには

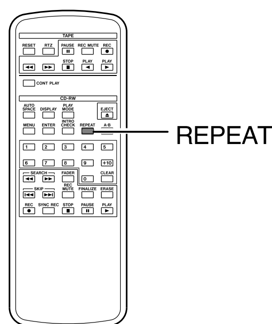
リモコンのCLEARキーを押します。
プログラムの最後のトラックが削除されます。

すべてのプログラムを消去するには

次のいずれかを行います。

- リモコンのPLAY MODEキーを押してプログラム再生モード以外のモードに切り換えます。
- EJECTキーを押します。
- 停止時にSTOPキーを押します。
- POWERスイッチを押して電源を切ります。

リピート再生モード



2つのリピート再生モードがあります。

通常のリピート再生

ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生します。

1 リモコンのREPEATキーを押してリピート再生をオンにします。ディスプレイに"Repeat ON"が表示され、【REPEAT】が点灯します。

この状態で、ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生できます

再生中にリピート再生をオンした場合は、そのまま再生を続け、ディスクの最後まで再生すると先頭に戻って再生を続けます。停止中にオンした場合は、PLAYキーを押すとリピート再生が始まります。

2 リピート再生をオフするには、リモコンのREPEATキーをもう一度押します。ディスプレイに"Repeat OFF"が表示され、【REPEAT】が消灯します。

メモ

◇リピート再生をシングル再生、プログラム再生、ランダム再生と組み合わせると、1曲リピート、プログラムリピート、ランダムリピートが行えます。

A-Bリピート再生

トラック内の区間（A-B）を指定して、繰り返し再生します。

1 再生中、リピート再生したい区間の始点（Aポイント）でA-Bキーを押します。
ディスプレイの【REPEAT】が点灯し、【A-B】が点滅します。

2 リピート再生したい区間の終点（Bポイント）でA-Bキーを押します。
ディスプレイの【REPEAT】が点灯し、【A-B】が点灯します。

3 A-Bリピート再生をオフするには、リモコンのA-Bキーを押します。
ディスプレイの【REPEAT】と、［A-B】が消灯し、A-Bリピート再生が解除されます。再生中に解除した場合は、A-Bリピート再生の終点に指定した位置を越えても再生が続きます。

ご注意

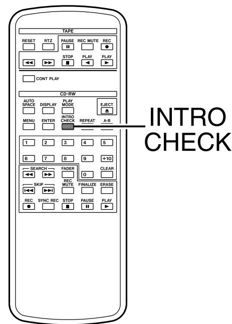
◇STOPキーを押すと、A-Bリピート再生モードを解除します。

◇Aポイントよりも前の時間にBポイントを設定することはできません。

◇MP3ファイルでは、A-Bリピート再生は行えません。

◇トラックを跨いでの、A-Bリピート再生は行えません。。

イントロチェック



停止中にINTRO CHECKキーを押すと、CDの各トラックの冒頭が10秒ずつ再生されます。

イントロチェックを途中でやめるにはSTOPキーを押します。
イントロチェック中にもう一度INTRO CHECKキーを押すと、通常再生になります。

メ モ

◇シングル再生モード、ランダム再生モードにおいてINTORO CHECKキーを押した場合は、通常の再生モードに戻してからイントロ再生を行います。

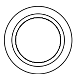
CDとテープの連続再生

本機にセットしたCDとテープを連続再生することができます。

1 テープとCDを装着します。

2 CD-TAPE CONT PLAYキー（リモコンの場合はCONT PLAYキー）を押します。
TAPE CD インジケータが点滅します。

CD－TAPE CONT PLAY

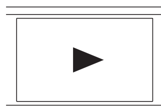


CONT PLAY

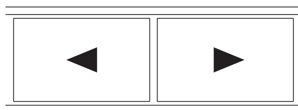


3 CDレコーダーまたはカセットレコーダーのPLAYキーを押します。

PLAY



PLAY　PLAY



対応するレコーダーが再生を始め、再生を終えると、他方のレコーダーが再生を始めます。

再生を選択したレコーダーを示す"**TAPE**" あるいは"**CD**" インジケータは点滅したままで、次に再生を開始する側のインジケータ（CD あるいはTAPE）は消灯します。

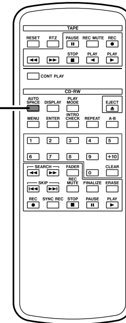
4 連続再生モードを解除したいときはもう一度CD-TAPE CONT PLAYキーを押してください。
再生はそのまま続きますが、TAPE CD インジケータが消灯します。

メ モ

工場出荷設定では、CDとTAPEの音はそれぞれ異なるLINE OUTPUTS端子から出力されますが、メニュー設定の”OUT2”をAUTOに設定する事により、LINEOUTPUTS2にTAPEとCDの再生音を出力させる事が出来ます。（同時に再生した場合はTAPEの音が優先になります。）

オートスペース

AUTO SPACE



トラック間に約４秒間のスペース(無音部分)を入れることができます。テープにダビング後、オートスペースを使ってCDからテープにダビングすると、録音した曲の頭出しをするときなどに便利です。

1 リモコンのAUTO SPACEキーを押します。ディスプレイの［A.SPACE］が点灯します。

2 オートスペースを解除するには、もう一度AUTO SPACEキーを押します。
再生を停止した場合もオートスペースは解除されます。

MP3 ファイルの再生

ここでは、MP3 ファイルが収録されたディスク（MP3 ディスク）を再生する方法を説明します。

MP3 ディスクを再生するには、ディスク内のすべての MP3 ファイルを再生対象にする方法と、特定のディレクトリ（フォルダ）に含まれる MP3 ファイルのみを再生対象にする方法（ディレクトリモード）があります。

メ モ

◇本機では ISO9660 レベル 1 、レベル 2 、または Joliet に準拠したフォーマットで記録された MP3 ファイルを再生することができます。また、マルチセッションで記録されたディスクも再生することが可能です。

◇MP3 ファイルとディレクトリ数に以下のような制限を設けております。

最大ディレクトリ数： 255

最大階層数： 8

最大 MP3 ファイル数： 999

MP3 ファイル拡張子名： mp3

◇MP3 のトラック情報について
本機では、ファイル名・MP3 の TAG 情報（曲名やアーティスト名）を表示できません。

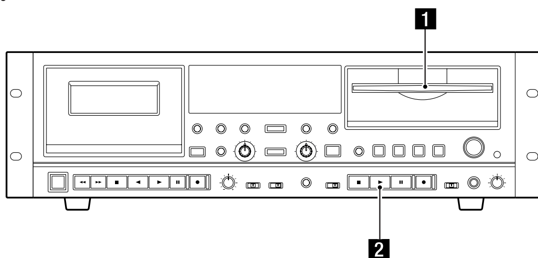
◇MP3 ディスクの場合の時間表示モードは、ELAPSED（トラック経過時間）のみです。

ご注意

◇44.1kHz 以外のサンプリングレートで変換された MP3 ファイルは、正常に再生できません。推奨フォーマットはサンプリングレート 44.1kHz、ビットレート 128kbps 以上です。

すべての MP3 ファイルを再生する

本機では、MP3 ディスクを通常のディスクと同じように再生できます。



1 MP3 ファイルが収録されたディスクを挿入します。

ディスクの読み込みが完了すると、MP3 ディスクの総トラック数が表示されます。総再生時間は表示されません。

メ モ

◇MP3 ファイルが保存されたディスクでは、それぞれの MP3 ファイルが「トラック」として扱われます。

◇MP3 ディスク内部が複数のディレクトリ（階層構造）に分かれている場合でも、子ディレクトリや孫ディレクトリにあるすべての MP3 ファイルが読み出されます。

◇トラック番号は、MP3 ファイルがディスクに書き込まれた順番で割り当てられます。パソコンで MP3 ディスクを作成する場合は、一般的にはアルファベット順で書き込まれますので、その順番で番号がつけられます。

複数のディレクトリ内にファイルが有る場合は、まずディレクトリ内でアルファベット順に並び替えられ、それらのファイル群が、ディレクトリのアルファベット順に番号付けられる事になります。

階層が複数段ある場合は、上位の階層から順に番号付けします。例えば次ページの図のような構造ですべてのディレクトリにファイルがある場合はルート、A,D,B,C の順番に番号付けられます。

既にファイルを書き込んだディスクに追記（マルチセッション記録）した場合には、最初に書いてあったファイルに番号を付けた後に、追記した分を番号付けます。

したがいまして、MP3 ディスクの作成方法によってはパソコン上で表示される順番と、本機でのトラック番号割り当ての順番が一致しない場合がありますのでご注意ください。

2 再生を始めるには、PLAY（►）キーを押します。

MP3 が再生されます。

メ モ

◇選曲は通常のディスクを操作するときと同じように行えます。

◇プログラム再生、リピート再生（A-B リピート再生を除く）などは、通常のディスクと同じように行えます。

ご注意

◇MP3 ディスクでは、トラックのサーチが行えません。

ディレクトリを指定して再生する

MP3 ディスク内部のディレクトリ単位で MP3 ファイルの再生を行うディレクトリモード（アルバム再生モード）について説明します。

ディレクトリ再生について

ディレクトリとは、CD メディアやハードディスク上の階層のことで、フォルダと呼ばれることもあります。

ディレクトリモード（アルバム再生モード）をオンにすると、選択されたディレクトリ内のファイルのみが操作対象になり、プログラム再生、リピート再生などもすべて同じディレクトリ内で行われます。

ディレクトリモードがオフのときは、ディレクトリ構造が無視され、ディスクに収録されているすべての MP3 ファイルが再生対象になります。

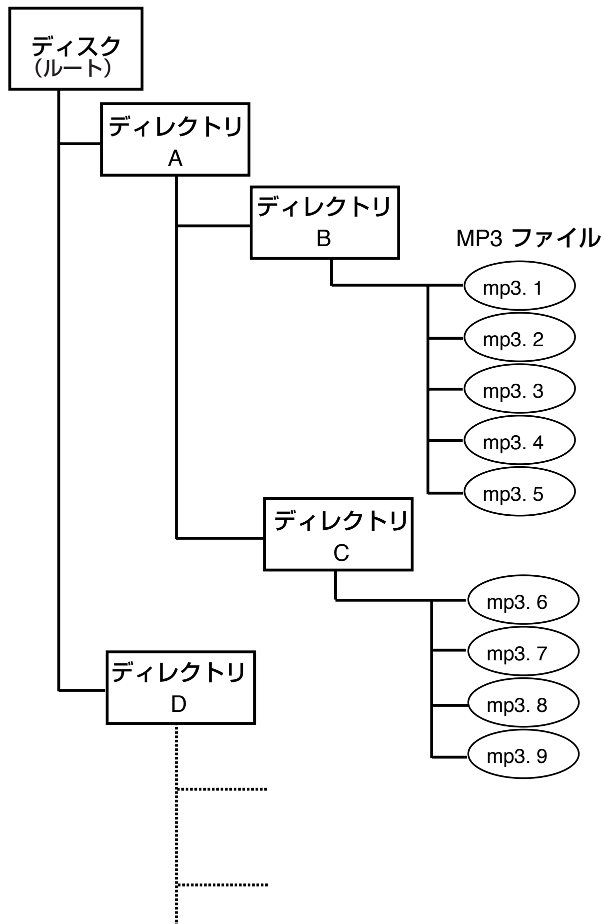
ご注意

◇ディレクトリモードをオンにすると、ルートディレクトリ（下図のディレクトリ A やディレクトリ D がある、最上段の階層）にある MP3 ファイルは再生の対象外となります。

ディレクトリ再生の設定

ディレクトリモードのオン／オフを切り替える方法と、ディレクトリモードの操作について説明します。

ディレクトリ構成の例



1 メニューキーを押して“MP3 DIR>XXX”(ON/OFF)を表示させます。

2 MULTI DIAL を回して、ディレクトリモードのオン／オフを切り替えます。

3 MULTI DIAL を押して、メニューを終了します。

4 操作対象となるディレクトリを選ぶには、停止中に、MULTI DIAL（あるいはリモコンの ⏮/⏭)を操作します。
ディスプレイに “MP3 DIR XXX”（ディレクトリの番号を選択可能）が表示されれます。
操作を止めてしばらくすると、元の表示に戻ります。このとき最後に表示されていたディレクトリが、操作対象になります。

メ モ

◇MP3 ファイルが存在しないディレクトリも操作対象として表示されます。例えば図のディレクトリ A は DIR001 として選択できますが、中にファイルが存在しませんので総トラック表示は"0Tr"となります。

5 フロントパネル（またはリモコン）の PLAY（►）キーを押します。
選択したディレクトリ内で再生が始まります。プログラム再生、リピート再生なども、すべて同一ディレクトリ内で行われます。

メ モ

◇再生中は MULTI DIAL（またはリモコンの SKIP キー）を使って、トラック（MP3 ファイル）の選択が行えます。

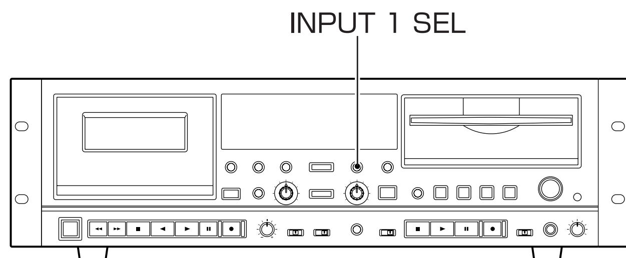
◇トラック スキップ操作中は ディレクトリ番号と目標トラック番号を表示します。（“ xxxAL xxxTr"）
AL はアルバムの意味です。DISPLAY 表示上はディレクトリを示す為に使用しています。

CD-R/RW の録音

録音の前に

- CD の規格により 99 トラック（曲）までしか録音できません。また、４秒以下の曲は録音できません。
- 録音を始めてから４秒以内に STOP キーまたは PAUSE キーを押した場合は４秒経ってから停止します。その間は無音録音状態になります。
- 録音の途中でディスクの録音可能時間が０になった場合は、フェードアウトした後、“Disc Full” を表示して停止します。
- 途中まで録音してあるディスクを入れた場合は、録音済み部分の終わりから続けて録音します。
- ファイナライズ済みの CD-RW にさらに録音したいときは、一度アンファイナライズします。[→ 22 ページ「ファイナライズ」]
- シンク録音機能やオートトラック機能を使う場合、本機はサウンドレベルで設定したレベルに従って録音を開始し、曲を区切ります。このため、冒頭や曲間に無音部分があるソースを録音すると、一曲当たりの長さ(再生時間)がソースと一致しないことがあります。

入力信号の選択



INPUT 1 SEL キーを押して入力信号（ソース）を選択します。

[OPTICAL] ：
DIGITAL OPTICAL INPUT の入力信号。ディスプレイに **[OPTICAL]** が表示されます。

[COAXIAL] ：
DIGITAL COAXIAL INPUT の入力信号。ディスプレイに **[COAXIAL]** が表示されます。

[LINE 1] ：
LINE INPUTS 1 の入力信号。ディスプレイに **[LINE 1]** が表示されます。

[PHONO] ：
PHONO の入力信号。ディスプレイに **[PHONO]** が表示されます。

[TAPE] ：
本機のカセットレコーダーの再生信号。ディスプレイに **[TAPE]** が表示されます。

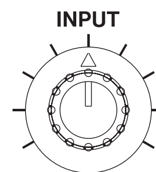
メ モ

◇PHONO 入力の操作については「アナログレコードをテープにダビング」（29 ページ）をご覧ください。

◇テープを録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については「テープを CD にダビング」（31 ページ）をご覧ください。

入力信号の調整

アナログ信号は、CD レコーダー側の INPUT レベルコントロールで調整します。



デジタル入力信号のレベルを調整する場合は、メニューの"VOLUME"(デジタルボリューム）を使います。この機能はアナログ入力に対しても有効ですが、通常はデジタルボリュームを"0"に固定しておき、アナログボリュームで調整することをおすすめいたします。

デジタルボリュームを使ったレベル調整

1 RECORD キーを押して録音一時停止状態にします。

2 MENU キーを押して **“VOLUME> XXXdB”** を表示します。

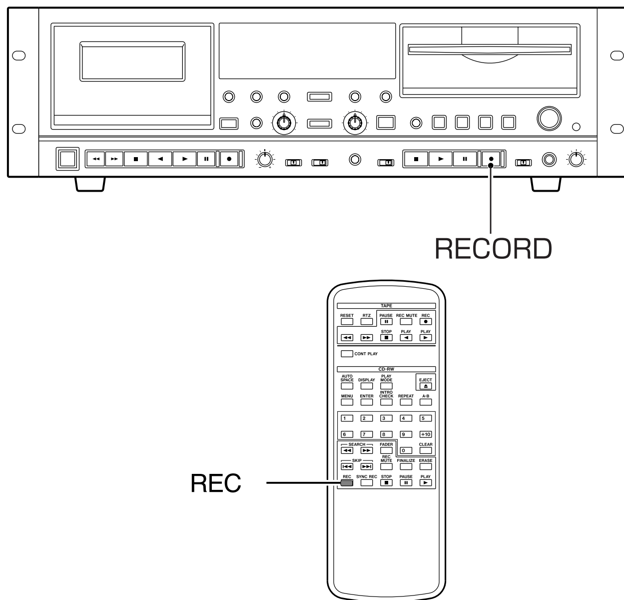
3 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、レベルを調整します。調整範囲は－ 60dB ～＋ 18dB です。

“---dB” で信号を完全にカットします。

ご注意

◇INPUT 1 がデジタル入力(COAX/OPT)を選択している場合と、アナログ入力(LINE 1/PHONO/TAPE)を選択している場合とでは異なる値を設定することができます。VOLUME を設定した後に入力を切り替えた場合は注意してください。

入力信号のモニター



ディスク未挿入時にCDレコーダー用のRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押すと、モニターモードになり、選択中の入力信号がLINE OUTPUTS 1端子から出力されます。（メニューでOUT2をAUTOに設定した場合は、カセットの録音／再生中以外は、LINE OUTPUTS 2端子からも出力されます。）

なお、MONITORスイッチをMIXまたはDISCに設定するとPHONES端子からも出力されます。

ディスプレイ上のメーターは入力レベルを表示します。

ご注意

◇再生ディスクが入っている状態ではモニターモードにはできません

サンプリングレートコンバーター

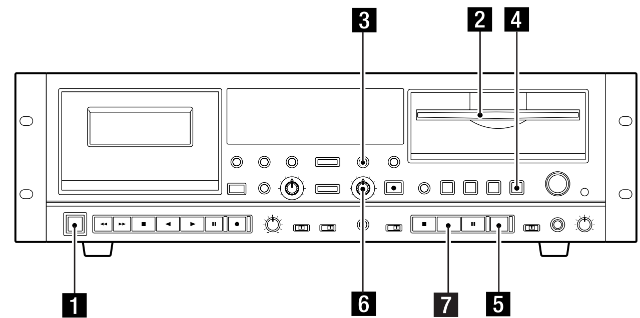
CDのサンプリングレートは44.1kHzですので、本機は常に44.1kHzで録音します。
本機はサンプリングレートコンバーター（SRC）を内蔵していますので、44.1kHz以外のデジタルソース（32kHz～48kHz）を録音できます。
44.1kHzのデジタルソース（CDなど）をディスクにそのまま録音する場合は、SRCをオフにする事をお奨めいたします。

1 MENUキーを押して **"SRC> XXX"** を表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、**"ON"** または **"OFF"** を選択します。

- SRCがオフの場合は、44.1kHz以外のデジタル入力信号は録音できません。録音しようとすると、エラーメッセージ **"Not Fs44.1k!"** が表示されます。
- SRCをオフしてもデジタルボリュームは有効です。デジタル入力された信号とデジタル的に全く同じ信号を録音したい場合はボリュームを **"0dB"** に設定してください。

基本的な録音



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 ディスプレイに"**NO DISC**"と表示されている状態で、録音可能なCD-RあるいはCD-RWディスクを挿入します。。

3 INPUT 1 SELキーを押して録音するソースを選びます。

4 トラック番号の付け方を選びます。（25ページ）

5 RECORDキーを押して録音待機状態にします。

[REC] と **[❚❚]** が点灯し、自動的にOPCを行った後、ディスプレイに"**Rec Standby**"を表示して録音待機状態になります。

- デジタルソースを選択した場合、ソース機器の電源が切れていたり接続が正しくないとエラーメッセージ"**D-IN UNLOCK!**"が表示されます。

メ モ

◇OPC(Optimum Power Control)とは、録音するために適切なレーザーパワーを調整することです。（→6ページ）

6 ソースの入力レベルを調整します。（20ページ）

メーターの **[OVER]** が点灯しないように調整してください。**[OVER]** が点灯するとデジタルノイズが発生します。

アナログ録音と異なり、メーターの［0］より上に余裕はありません。

メ モ

◇CDなどを録音する場合は、原則として、メニューのVOL-UMEを"**0dB**"にすることをお勧めします。ソースCDのダイナミックレンジをクリップなく録音できます。

7 PLAYキーを押して録音を始めます。

録音開始位置を探す必要はありません。自動的に現在の最終曲を検出し、その次から録音を始めます。

メ モ

◇一般のCDプレーヤーで再生できるようにするにはファイナライズをします。詳しくは「ファイナライズ」（22ページ）をご覧ください。

録音を止めるには

STOP キーを押します。
ディスプレイの［REC］が点滅し "PMA Writing" ** を表示してディスクに録音内容を記録します。

録音を一時停止するには

PAUSE キーを押します。
もう一度 PLAY キーまたは PAUSE キーを押すと、再び録音が始まります。このとき、トラック番号が新しくなります（1 つ繰り上がります）。

ディスクを取り出すには

録音を停止してから、EJECT キーを押します。

ご注意

◇"PMA Writing" 表示中はディスクに録音内容を記録しています。このためキー操作は受け付けません。

◇"PMA Writing" 表示中に本機を揺らしたり電源を切ったりしないでください。録音内容を正しく記録できなくなります。

**PMA = Program Memory Area

メ モ

◇オーディオ CD の規格により、1 枚のディスクの最大トラック数は 99 です。また各トラックの長さは 4 秒以上でなければなりません。録音開始後、4 秒経過する前に録音を停止しようとしても、4 秒経過してから停止します。

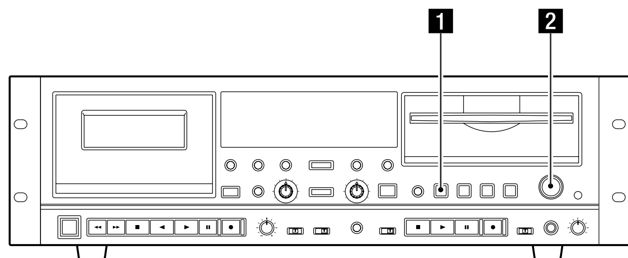
ファイナライズ

TOC を記録することをファイナライズといいます。
本機で録音したディスクは本機では再生できますが、最終的な TOC をディスクに記録するまで、一般の CD プレーヤーでは再生できません。

ファイナライズした CD には新たに録音できません。

メ モ

◇CD-RW の場合は、アンファイナライズすれば再び録音することができます。



● ディスクを正しくセットします。

1 停止時に FINALIZE キーを押します。
ディスプレイに "Finalize OK?" を表示します。

中止したいときは、STOP キーを押します。

2 MULTI DIAL またはリモコンの ENTER キーを押すと、ファイナライズが始まります。ディスプレイに "TOC X:XX" を表示し［REC］が点滅を始めます。

ファイナライズが終了すると "Complete" を表示します。

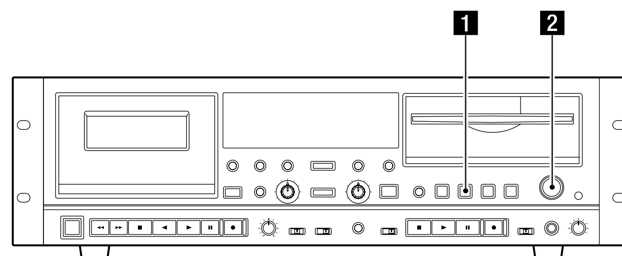
ご注意

◇ファイナライズ中に電源を切らないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。

◇ファイナライズ中は操作キーを受け付けません。

アンファイナライズ

アンファイナライズは CD-RW ディスクのみ可能です。



● ファイナライズ済みのディスクを正しくセットします。

1 停止時に ERASE キーを押します。
リモコンの SKIP キーまたは MULTI DIAL を使って、ディスプレイに "Unfinalize OK?" を表示させます。

中止したいときは、STOP キーを押します。

2 MULTI DIAL またはリモコンの ENTER キーを押すと、アンファイナライズが始まります。ディスプレイに "ERASE X:XX" を表示し［NO TOC］が点滅を始めます。

アンファイナライズが終了すると "Complete" を表示します。

表示モード

録音中、もしくは録音待機状態で、DISPLAY キー ㉓ を押して表示モードを切り換えます。

［表示なし］：
現在のトラックの録音済み時間を表示します。

［REMAIN］：
ディスクに録音可能な残り時間を表示します。

［TOTAL］：
ディスクの録音済み時間を表示します。

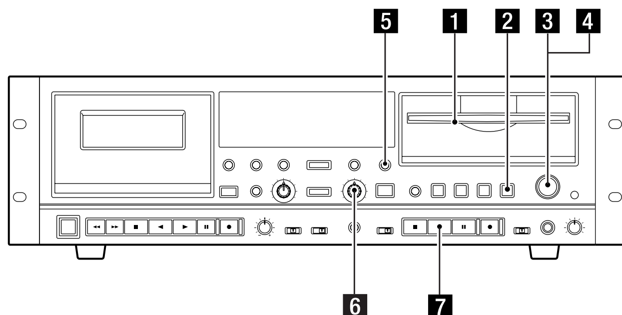
［TOTAL REMAIN］：
ディスクに録音可能な残り時間を表示します。

メ モ

◇録音中、および録音待機状態では、REMAIN と TOTAL REMAIN は同じ内容となります。

アナログレコードを CD にダビング

外部のアナログレコードプレーヤーを本機の PHONO 端子に接続することにより、アナログレコードを CD にダビングすることができます。



1 録音可能なディスクをセットします。

2 MENU キーを押して **"PHONO>xxxx"** を表示します。

3 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、**"PHONO>DISC"** を選択します。

4 MULTI DIAL またはリモコンの ENTER キーを押します。

5 PHONO キーを押します。
ディスプレイに［**INPUT 1**］と［**PHONO**］が点灯し、INPUT 1 の入力が PHONO であることを示します。
CD レコーダーは録音待機状態になります。

6 必要に応じて、CD レコーダー側の INPUT つまみで録音レベルを調節します。

7 レコードを再生すると同時に、CD レコーダーの PLAY キーを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOP キーを押します。
録音を止めるとディスプレイの［**PHONO**］が消灯します。

メ モ

◇レコードをダビングする場合は、オートトラック（→ 25 ページ）をオフにすることをお勧めします。
レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、適切にオートトラック機能が働かないことがあります。

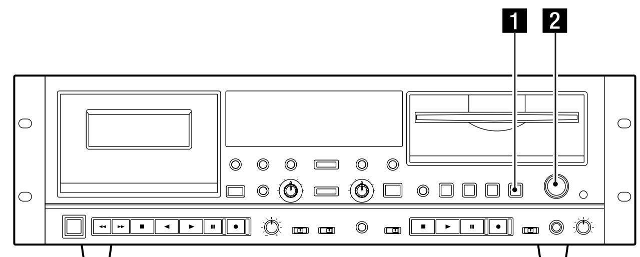
◇PHONO キーを使った録音では、手動でトラックをインクリメントできません。手動でトラックをインクリメントしたい場合は、基本的な録音（→21 ページ）で行ってください。

◇PHONO ソースを録音中は STOP キー以外のキーを受け付けません。

◇CD 側への録音のみ、PHONO 入力からの録音を手動で行うことができます。操作方法は、INPUT SEL キーで PHONO を選択した後、基本的な録音方法で録音します。（→21 ページ）

サウンドレベルの設定

サウンドレベルの設定に従って、テープから CD へのダビング、シンク録音、オートトラック機能が働きます。



1 MENU キーを押して **"S_LVL> XXX"** を表示します。

2 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、値を選択します。選択できる値は、デジタル入力の場合、"－ 72dB"、"－ 66dB"、"－ 60dB"、"－ 54dB"、"－ 48dB"、"－ 42dB"、"－ 36dB"、"－ 30dB"、"－ 24dB"、アナログ入力の場合、－ 54dB"、"－ 48dB"、"－ 42dB"、"－ 36dB"、"－ 30dB"、"－ 24dB です。

メ モ

◇テープあるいはレコードから録音する場合は、サウンドレベルを－ 30dB、もしくは－ 24dB に設定することをおすすめします。それよりも小さな値に設定すると、ノイズによりオートトラックの誤検出が発生しやすくなります。

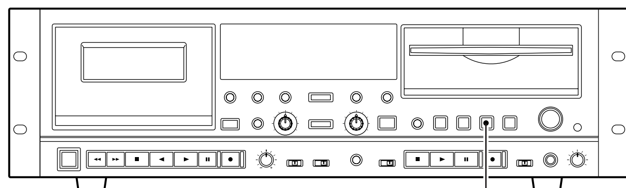
シンク録音

シンク録音とは、ソースの始まりを検出して自動的に録音が始まり、終わりを検出して自動的に録音が終わる録音です。
ソースの始まりや終わりの検出の基準になるサウンドレベルは、メニューを使って設定することができます。[→ 23ページ「サウンドレベルの設定」]

メ モ

◇レコードをダビングする場合は、シンク録音をオフにすることをお勧めします。
レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、シンク録音機能が適切に働かないことがあります。

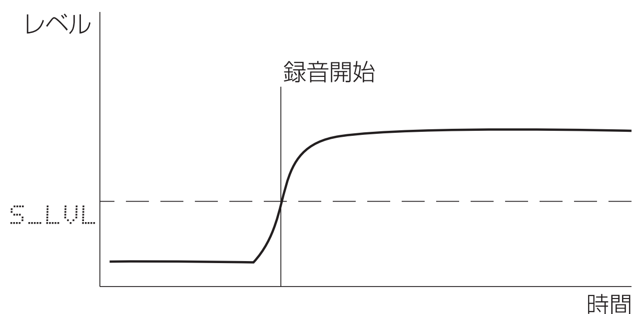
◇SYNCはサウンドレベルのみで行います。



「基本的な録音」（21ページ）のステップ 9 でPLAYキーを押す代わりに、SYNC RECキーを押すとシンク録音の待機状態になります。このとき、ディスプレイに**"SYNC ON"**を表示し、**[SYNC]**が点灯します。

シンク録音の待機状態で以下の信号を検出すると、自動的に録音を開始します。また、シンク録音中に５秒間無音を検出すると、自動的に録音待機状態になります。

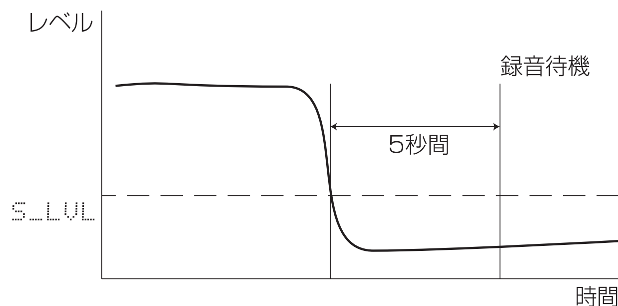
● 無音状態が１秒以上続いた後、設定したサウンドレベル以上の音が入ってきたとき



無音とは・・

この取扱説明書では、サウンドレベル以下の音を無音と呼びます。

● ５秒間無音が続いたとき

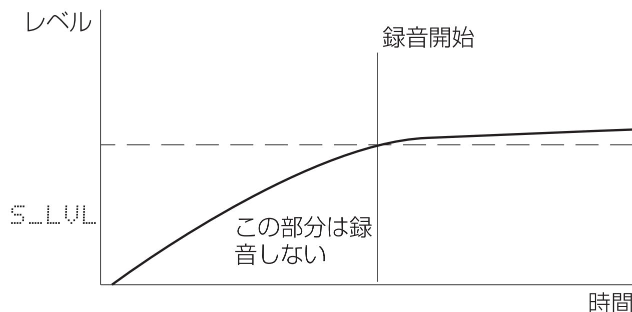


メ モ

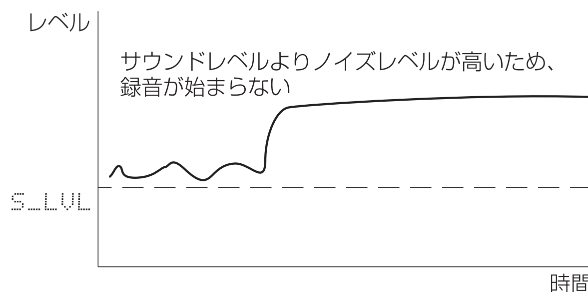
◇SYNC RECキーを押すと**"SYNC OFF"**を表示してシンク録音がオフになります。録音中にオン／オフを切り換えることもできます。

ご注意

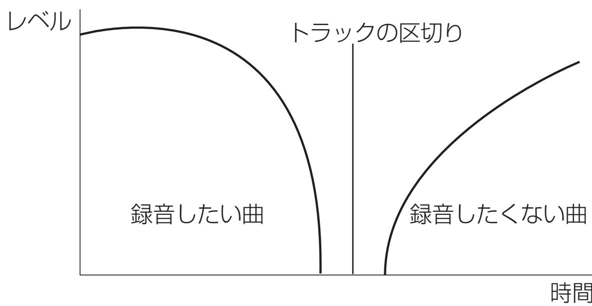
◇サウンドレベルを高めに設定すると、小さい音から始まる曲の始めの部分が欠けてしまうことがあります。

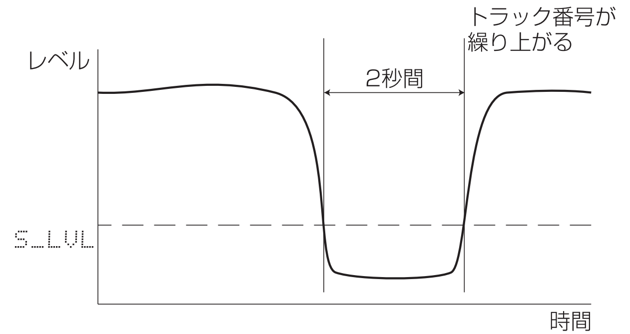


◇反対に、サウンドレベルを低めに設定すると、アナログソースなどのノイズレベルがサウンドレベルより高くなってしまうことがあります。この場合はシンク録音が働きません（録音が始まりません）。



応用例：





通常のシンク録音では曲が終わってから５秒の無音録音部分ができますが、「録音トラック数の指定」（26ページ）とオートトラックのDD設定を組み合わせて使うことで、録音したい曲が終わると同時に録音を終了することができます。
この場合、あらかじめソース側の録音したい最終曲の後に録音不要な曲を作っておきます。

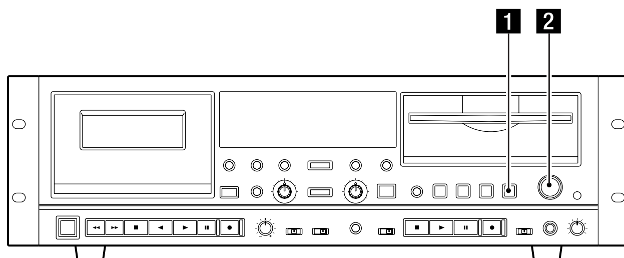
オートトラック（自動トラック番号）

メニューの"**A_TRK**"の設定に従って、録音中自動的にトラック番号を付けることができます。

メモ

◇レコードをダビングする場合は、オートトラックをオフにする事をお奨めします。
レコードは、その特性上スクラッチノイズなどが多いため、オートトラックが適切に働かないことがあります。

オートトラックの設定



1 MENUキーを押して"**A_TRK> XXX**"を表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、"次の中からモードをを選択します。

● OFF

オートトラック機能は働きません。

● Level

オートトラック動作レベル以下の信号が２秒以上続いた後で、信号が動作レベルを超えるとトラック番号が更新されます。
オートトラック動作レベルは、メニュー内の "**S_LVL**"項目を使って設定します。設定範囲は－24dB～－72dB（6dBステップ）です。A_TRK=Level時、ディスプレイの**[A.TRACK]**インジケータが点灯します。

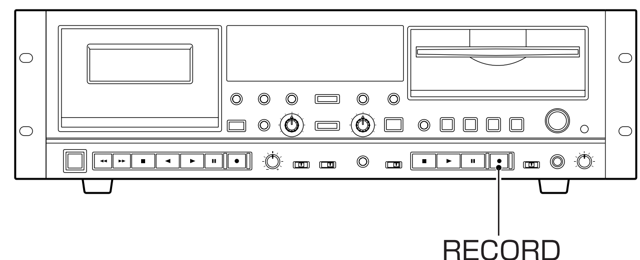
● DD

デジタルソース（CD、DAT、MD）を録音するときに、ソース側のトラックの区切りを検出し、トラック番号が更新されます。A_TRK>DD時、ディスプレイの **[A.TRACK]**インジケータが点灯します。
ただし、DDが選ばれているときでも、アナログソース録音時、または上記以外のデジタルソース録音時には、"Level"設定の場合と同じように、入力レベルに応じてトラック番号が更新されます。

● Time

録音開始後、あらかじめ設定した時間が経過した後で、トラック番号が更新されます
設定時間はメニュー内の"**A_TIME**"項目を使って設定します。
設定時間は１～10分まで１分単位で設定できます。
A_TRK>TIME時、録音中、または録音待機中は **[A.TRACK]** インジケータが点滅します。

マニュアルでトラック番号を付ける



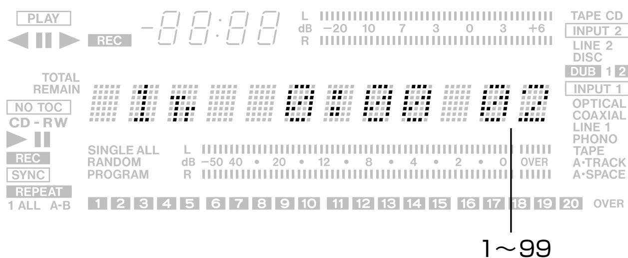
オートトラックメニュー（"**A_TRK> XXX**"）の設定に関わらず、録音中にRECORDキーを押すと、新しくトラック番号を付けることができます。

メモ

◇PHONOキーを使った録音では、手動でトラックをインクリメントできません。手動でトラックをインクリメントしたい場合は、基本的な録音（→21ページ）で行ってください。

録音トラック数の指定

録音するトラックの数を予め指定しておくことができます。



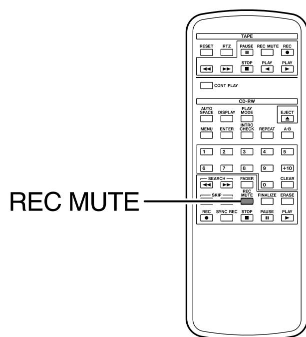
録音中または録音待機中に、MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを押すと、ディスプレイに録音するトラックの数を表示します。

メ モ

◇合計 99 トラックまで指定できます。

レックミュート

無音録音部分を簡単につくることができます。

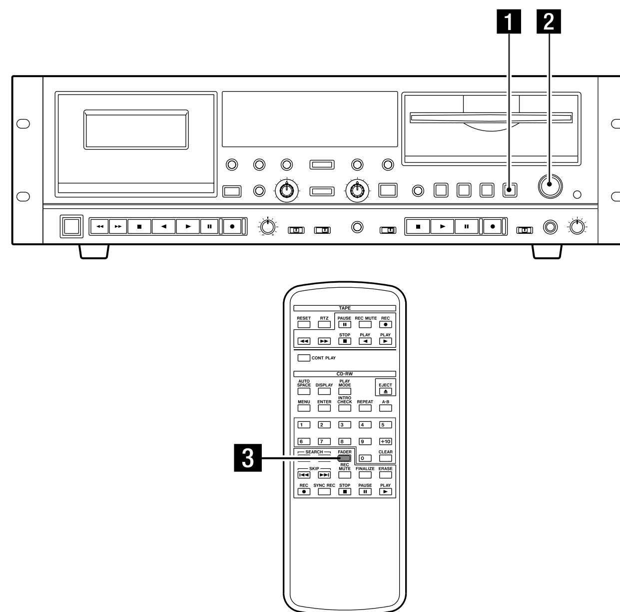


録音中にリモコンのREC MUTEキーを押します。
無音録音が開始され、約４秒後に録音一時停止状態になります。

- レックミュート機能はリモコンからのみ操作できます。

フェードイン／アウト

録音中に、入力信号を無音状態から設定したレベルまでフェードインさせたり、逆に現在のレベルから無音状態までフェードアウトすることができます。
また、フェードイン／アウトの時間をそれぞれ個別に設定することもできます。



1 MENUキーを押して“**FADE IN(OUT)> XXX**”を表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを押して、値を選択します。

フェードイン／アウトともに選択できる値は１秒～30秒（1秒単位）です。

3 フェードイン／アウトするときは、録音一時停止または録音状態で、リモコンのFADERキーを押します。フェードイン中は“**FADE IN**”、フェードアウト中は“**FADE OUT**”をディスプレイに表示します。

メ モ

◇フェードイン中のフェードアウト、フェードアウト中のフェードインも可能です。

コピー ID の設定

デジタルコピーに対するコピー ID を設定することができます。

1 MENU キーを押して **"COPY ID> XXX"** を表示します。

2 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、ID を設定します。

選択できる ID は、

"FREE" ： 録音したディスクにコピー制限はありません
"PROH"* ： 録音したディスクはデジタルコピーできません。
"1GEN"** ： 録音したディスクから一世代のみデジタルコピーできます。

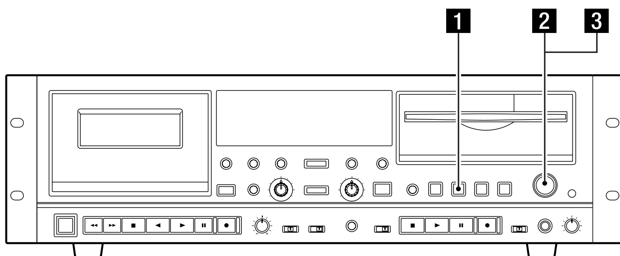
メ モ

◇コピー ID はディスク単位だけでなく、トラック単位でも設定できます。例えば、コピー ID を FREE に設定した状態でトラック 1 を録音した後、停止状態にてコピー ID を PROH に変更してからトラック 2 を録音すると、トラック 1 とトラック 2 は異なるこコピー ID が書き込まれます。

*PROH = PROHIBIT
**GEN = GENERATION

消去

CD-RW に録音したトラックは消去することができます。
ディスク全体、または指定したトラックから最後のトラックまでを消去できます。



ディスクを正しくセットします。

1 停止時に ERASE キーを押します。

2 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、ディスプレイに以下を表示します。

ディスク全体を消去する場合は：
→ "ERASE DISC ?"

指定したトラックから最後のトラックまでを消去する場合は：
→ "ERASE XX – XX ?"

中止したいときは、STOP キーを押します。

3 MULTI DIAL またはリモコンの ENTER キーを押すと、ディスプレイに **"ERASE X:XX"** を表示して消去が始まります。

消去が終了すると **"Complete"** を表示します。

ご注意

◇消去中に電源を切らないでください。
録音内容が消えるばかりではなく、ディスクが使えなくなる恐れがあります。

◇CD-R への録音は消去できません。

◇消去中は操作キーを受け付けません。

◇再生モードが SINGLE/RANDOM/PROGRAM の時はトラック消去はできません。リモコンの PLAY MODE キーを使って再生モードを Continue にしてから消去してください。

ディスクリフレッシュ

ファイナライズ中に停電があったディスクやコンピュータで使用したディスクは本機では認識できないことがあります。
このような場合はディスクをリフレッシュします。

ご注意

◇ディスクリフレッシュは DISC 全体を書き換えます。
すべての記録内容が消去されますので注意してください。
通常の状態の CD-RW DISC ではディスクリフレッシュを行っても、記録品質が向上するということはありませんので、この機能を使用する必要はありません。

1 停止時に ERASE キーを押します。

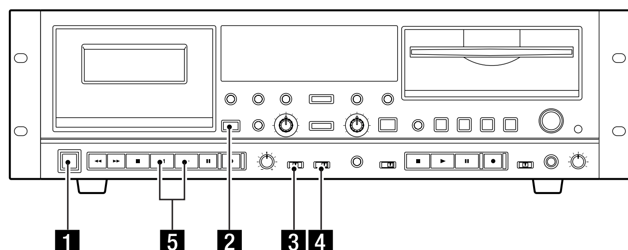
2 MULTI DIAL またはリモコンの SKIP キーを使って、ディスプレイに **"DISC REFRESH"** を表示させます。

3 MULTI DIAL またはリモコンの ENTER キーを押すと、ディスプレイに **"ERASE X:XX"** を表示してディスクリフレッシュが始まります。

ディスクリフレッシュが終了すると **"Complete"** を表示します。

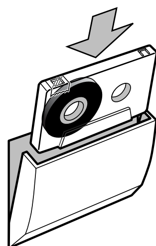
カセットの録音／再生

基本的な再生



1 POWERキーを押して電源を入れます。

2 EJECTキーを押してカセットホルダーを開き、カセットを装着します。



A面を手前にし、テープの見える方を下向きにしてカセットを入れ、ホルダーを手で押して閉めます。

3 リバースモードを選びます。

REV MODEスイッチを使って設定します。

：A面とB面を連続再生

：A面とB面の両面再生

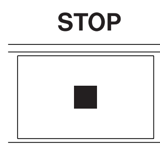
：A面またはB面の片面再生

4 ドルビーのオン／オフを選びます。
ドルビー（B タイプ）録音したテープを再生するときには、DOLBY NR スイッチをON にします。

5 PLAYキーを押します。
A面を再生する場合は ► キーを、B面を再生する場合は ◄ キーを押します。

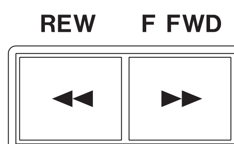
再生を止めるには

STOPキーを押します。



早送り／巻戻しをするには

停止中または一時停止中にFFWD（►► ）／REW（◄◄）キーを押します。



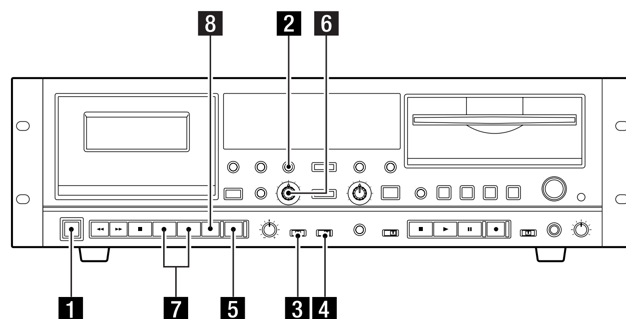
テープとCDの連続再生

CD-TAPE CONT PLAYキー（リモコンの場合はCONT PLAYキー）を押してから、CDレコーダーまたはカセットレコーダーのPLAYキーを押すと、テープとCDの連続再生を行なうことができます。



詳しくは「CDとテープの連続再生」（17ページ）をご覧ください。

基本的な録音



1 電源を入れ、カセットテープを挿入します。
カセットテープの誤消去防止用のツメが折れていないことを確認します。折れている場合はセロハンテープなどで塞いでください。

2 INPUT 2 SELキーを押して録音ソース（LINE2またはDISC）を選びます。
DISCを選択すると、本機のCDレコーダー出力がソースになります。
LINE2を選択すると、リアパネルのLINE 2端子の入力信号がソースになります。

メ モ

◇PHONO端子の入力信号を録音することもできます。その場合の操作については「アナログレコードをテープにダビング」（29ページ）をご覧ください。

◇CD（ディスク）を録音する場合、ダビング機能を使うと便利です。その場合の操作については「CDをテープにダビング」（32ページ）をご覧ください。

3 リバースモードを選びます。

：A面とB面の両面を録音

：A面またはB面の片面録音

4 ドルビーのオン／オフを選びます。

ドルビー（B タイプ）を入れて録音したいときには、DOLBY NR スイッチをON にします。

5 カセットレコーダー用のRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押します。
録音待機状態になり、ディスプレイ上ではメーターが入力レベルを表示し、[REC] が点灯します。
またLINE OUTPUTS 2端子から録音ソースの音が出力されます。なおMONITORスイッチをMIXまたはTAPEに設定するとPHONES端子からも出力されます。

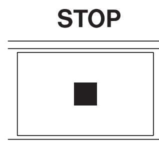
6 録音レベルを設定します。
録音ソースを再生し、メーターを見ながら最適レベルになるように、カセットレコーダー用のINPUTつまみを使って調節します。
一番レベルの高いときのメーターの指示が、ノーマルテープ、ハイポジションテープでは、0dBぐらいになるように設定します。

7 テープ走行方向を確認／選択します。
ディスプレイのリバース／フォワード表示（◄／►）が、現在のテープ走行方向を示しています。逆の方向に録音したい場合は、録音方向のPLAYキーを押すとテープ走行方向が変わります。

8 PLAYキーまたはPAUSEキーを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOPキーを押します。



録音を一時停止するには

PAUSEキーを押します。この状態から録音を再開するにはPAUSEキーまたはPLAYキーを押します。

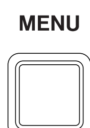


アナログレコードをテープにダビング

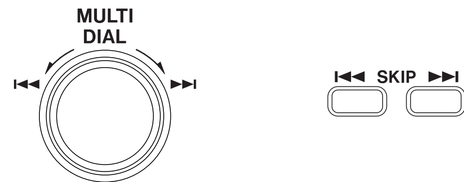
外部のアナログレコードプレーヤーを本機のPHONO端子に接続することにより、アナログレコードをダビングすることができます。

1, 上記のように録音の準備をします（テープをセット、リバースモードを設定、ドルビーを設定など）。

2, MENUキーを押して "PHONO>xxxx" を表示します。



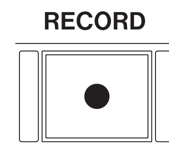
3, MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って、"PHONO> TAPE" を選択します。



4, MULTI DIALまたはリモコンのENTERキーを押します。



5, テープのA面の頭から録音する場合はカセットレコーダーを停止します。途中から録音する場合はその位置にロケートしてからRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押して、録音待機状態にします。



6, PHONOキーを押します。



ディスプレイに [PHONO] が点灯します。

テープが停止中の場合、自動的にテープがA面の頭まで巻き戻され、リーダーテープ部分を避けるため約8秒送られた後、録音待機状態になります。録音待機状態の場合はそのままです。

7, レコードを再生すると同時に、カセットレコーダーのPLAYキーまたはPAUSEキーを押して録音を開始します。

録音を止めるには

STOPキーを押します。
録音を止めるとディスプレイの [PHONO] が消灯します。

メ モ

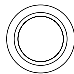
◇PHONOソースを録音中はSTOPキー以外のキーを受け付けません。

◇ディスプレイにPHONOが点灯時のみ、PHONO入力が録音ソースになり、消灯中はINPUT 2 SELキーで選択した信号が録音ソースになります。

その他の機能

曲間に無音スペースを作る［ミュート］

録音中にREC MUTEキーを押すと、約４秒間の無信号録音が行なわれた後、一時停止します。録音を再開するにはPLAYキーまたはPAUSEキーを押します。

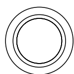


４秒以上のスペースをつくるにはREC MUTEキーを４秒以上押し続けます。4 秒以上押し続けて指を離したときに一時停止状態になります。

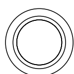
テープカウンター

テープが左から右に走行するとカウンター値が増え、右から左に走行するとカウンター値が減ります。

RESETキーを押すと0000にカウンター値がリセットされます。



RTZキー（Return-to-zeroキー）を押すと0000位置にロケートします。

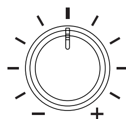


ご注意

◇カウンター値9995～0004の範囲内ではRTZ機能が働きません。

ピッチコントロール

本機のカセットレコーダーには再生時に働くピッチコントロール機能がついています。

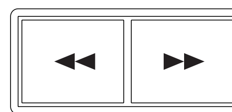


PITCH CONTROLつまみがセンター位置（クリックがある位置）のときは標準ピッチです。右に回すとスピードが速くなり、左に回すと遅くなります（±10%の範囲）。

サーチ機能（CPS）

再生中にREW（◀◀）／FFWD（▶▶）キーを押すことにより、曲をサーチすることができます（CPS 機能)。

CPS とはComputer-controlled Program Searchの略です。



フォワード再生時に ▶▶ キーを押すと、次の曲の頭を探してそこから再生が始まります。テープカウンターに **“CP01”** が表示されます。

押す回数によって任意の曲を選ぶことができます。

◀◀ キーを押すと、曲の途中であれば現在の曲の頭を探し、曲の頭であれば手前の曲を探します。ディスプレイに **“– CP01”** を表示します。

押す回数によって任意の曲を選ぶことができます。

- リバース再生時は ◀◀ キーが次の曲を探し、▶▶ キーが前の曲を探します。

メ モ

◇停止中または一時停止中は、これらのキーは早送り／巻戻しキーとして機能します。

◇▶▶ キーまたは ◀◀ キーを多く押しすぎた場合、逆方向のキーを押すことにより戻すことができます。

◇本機能では４秒以上の無音部分を検出するとトラックの変わり目と見なします。したがってトラック間の無音部分が４秒以下の場合は同一トラックと見なしてしまいます。また逆にトラックの中に静かなパートが４秒以上続く場合、別のトラックとして認識することがあります。

LINE OUTPUTS2 端子の機能を変更する

LINE OUTPUTS2 端子にテープの再生音だけを出力するか、テープとCDの再生音を自動切り替えで出力するかを選択することが出来ます。

1. メニューキーを押して“OUT2 > XXX”(TAPE/AUTO)を表示させます。
2. MULTI DIAL を回して、TAPE/AUTOを切り替えます。

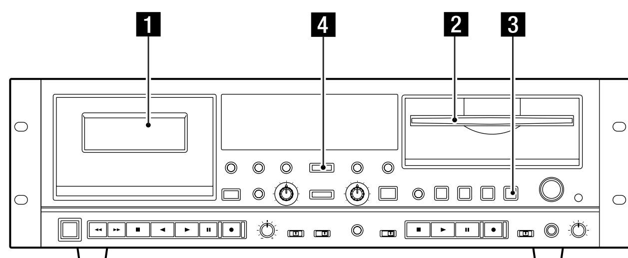
   TAPE：テープの再生音を出力します。

   AUTO：テープあるいはCDの再生音を自動切り替えで出力します。テープとCDを同時に再生した場合はテープの音が優先されます。
3. MULTI DIAL を押して、メニューを終了します。

本機にセットしたCDとカセット間のダビング（CD → カセット、カセット → CD）を行なうとき、DUB（1、2）キーを使ったダビング機能を使うと便利です。

テープをCDにダビング

簡単にダビングするには



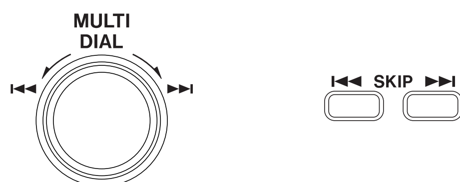
1 カセットテープをセットします。
最初に再生する面を表側にしてセットします。
またドルビーの設定、リバースモードの設定などを行ないます。

2 録音可能なディスクをセットします。

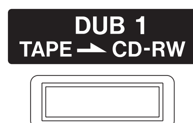
3 MENUキーを押して **"DUB>VOL"** を表示します。設定が **"THRU"**（初期設定）であることを確認します。

メニューのDUB>VOL項目を **"THRU"** に設定すると、ダビング時にINPUTつまみをバイパスして、適正なレベルで録音します。［ → 33ページ「ダビング時にINPUTつまみを無効にする」］

"THRU" が選択されていない場合は、MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って"THRU"に切り換えます。

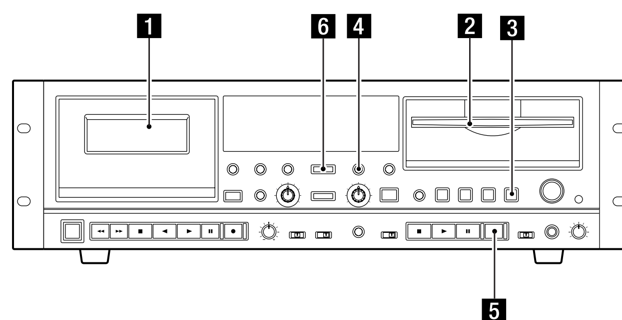


4 DUB 1キーを押します。ダビングが始まります。
自動的にA 面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（DUBインジケーター点滅）。



ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはテープが停止すると、テープとディスクの両方が停止してダビングが終了します。

録音レベルを調整してダビングするには



1 カセットテープをセットします。
最初に再生する面を表側にしてセットします。
またドルビーの設定、リバースモードの設定などを行ないます。

2 録音可能なディスクをセットします。

3 メニューのDUB> VOL項目を"**ON**"に設定します。

4 INPUT 1 SELキーを押して **"TAPE"** を表示します。
テープが録音ソースになります。

5 CDのRECORDキーを押し、録音レベルを調節します。
［ → 21ページ「基本的な録音」］

6 テープとCDが停止状態であることを確認し、DUB 1キーを押します。
自動的にA 面の頭までテープが巻き戻され、再生を始めます（DUBインジケーター点滅）。

ディスクの録音可能時間に達するか、あるいはテープが停止すると、テープとディスクの両方が停止してダビングが終了します。

ダビングを途中でやめるには

カセットレコーダーまたはCDレコーダーのSTOPキーを押します。

メ モ

以下の場合にダビングが実行できません。

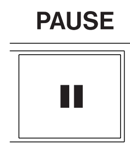
◇録音可能なディスクがセットされていない。

◇テープがセットされていない。

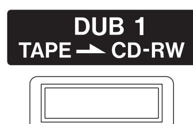
◇ カセットおよびCDが停止していない。

テープの途中から CD にダビングするには

1. テープを希望の再生開始位置にロケートしてから、カセットレコーダーの PAUSE キーを押します。



2. DUB 1 キーを押します。



テープが再生を始めると同時に CD が録音を開始します。

CD をテープにダビング

本機にセットした CD をワンタッチでカセットにダビングすることができます。

準備

1. CD をセットします。

   ダビングの際も CD のプログラム再生モード、ランダム再生モード、シングル再生モード、リピート再生（A-B リピート以外）などの機能が使えますので、必要に応じて設定を行なってください。特に設定をしなければ 1 曲目から順にダビングを行ないます。
2. カセットをセットします。
3. 通常はメニューの DUB>VOL 項目を **"THRU"** に設定します。これによりダビング時に INPUT つまみをバイパスして、本機内部で適正な録音レベルに自動設定されます。
   ［ → 31 ページ「ダビング時に INPUT つまみを無効にする」］

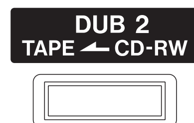
メ モ

◇INPUT 1 SEL キーでソースを選択する必要はありません。

◇録音レベルを手動で調節したい場合は、メニューの DUB>VOL 項目を **"ON"** に設定し、「基本的な録音」（21 ページ）で述べた方法で調節します。

テープの A 面の頭から録音するには

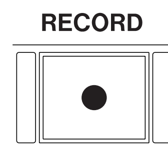
1. 停止中に DUB 2 キーを押します。



自動的に A 面の頭までテープが巻き戻され、テープカウンターが"0000"にリセットされます。CD は最初の曲の頭で一時停止して待機します。次にカセットは約 8 秒の無信号録音を行なった後(リーダーテープ部分を避けるため)、CD の演奏と同時に録音モードになり、ダビングを開始します（DUB インジケーター点灯）。

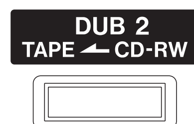
テープの途中から録音するには

1. 録音したい位置までテープを送ります。
2. RECORD キー（リモコンの場合は REC キー）を押して録音待機状態にします。



ディスプレイに［REC］と［❚❚］が点灯します。

3. DUB 2 キーを押します。



録音方向設定に従って、その位置からダビングを開始します。

メ モ

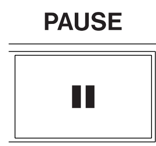
◇CD 再生が終わるか、テープエンドに来てテープが停止（どちら面のエンドで停止するかはリバースモードによります）すると、ダビングが終了します。

◇両面録音モードでダビング中、録音開始時の面の最後に録音される曲が終わらないうちに走行方向が反転した場合、その曲は新たに冒頭から録音されます。

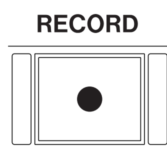
◇両面録音モードでダビング中、走行方向が反転後 8 秒間は録音を行ないません（カセットレコーダーは録音モードですが CD レコーダーが再生を一時停止します）。

CDの途中からテープにダビングするには

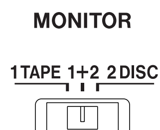
1. CDの希望のトラックを選択してPAUSEキーを押します。



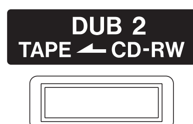
2. 途中から録音する場合はその位置にロケートしてからRECORDキー（リモコンの場合はRECキー）を押して、録音待機状態にします。



上記操作を行なうとき、MONITORスイッチを1＋2（MIX）に設定してヘッドホンでモニターすると、カセットとCDの両方の音が聞こえるので便利です。



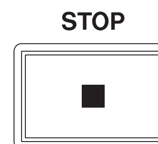
3. DUB 2キーを押します。



ダビングが始まります。
（ただしカセットがA 面の頭以外の位置で停止中の場合はA 面の頭にロケートしてからダビングが始まります。）

ダビングを途中でやめるには

カセットレコーダーまたはCDレコーダーのSTOPキーを押します。



メモ

以下の場合にダビングができません。

◇CDがセットされていない。

◇テープがセットされていない。あるいは誤消去防止用のツメが折れている。

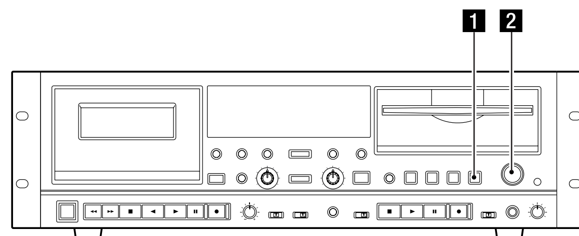
◇レコーダブルCDに何も録音されていない。

◇カセットレコーダーが停止または録音待機状態になっていない。

◇CDが停止や一時停止以外のモードになっている。

ダビング時にINPUTつまみを無効にする

本機のダビング機能を使ってCDとカセット間のダビングを行なう場合、INPUTつまみに関係なく録音レベルを自動設定することができます。



1 MENUキーを押して“**DUB>VOL**”を表示します。

2 MULTI DIALまたはリモコンのSKIPキーを使って“THRU”を選択します。

ONを選択するとダビング時にもINPUTつまみが働きます。

メモ

◇この設定は、DUB（1、2）キーを使ったCDとカセット間のダビング時にのみ有効です。

◇ダビング中にこのメニュー設定を見る（確認する）ことはできません。

メッセージ一覧

エラーメッセージ

エラーメッセージが表示されたときは、STOP キーを押してから原因を取り除いてください。それでも改善しない場合は、お近くの当社サービス機関にご相談ください。

Cannot Rec !

録音できません。

➡ ディスクを交換してください。

Disc Error !

ディスクに何らかの問題があり本機では読み取ることができません。（本機では対応していないフォーマットで作成されたDISCの場合もこのメッセージがでます。）

➡ ディスクを交換してください。

Disc Full !!

トラック数または録音時間が限界に達したため録音を停止します。

Drive Error!

CD-RW ドライブに問題があります。

D-IN UNLOCK!

デジタル入力を接続していません。

➡ デジタル入力を接続してください。

接続したデジタル機器の電源がオフです。

➡ 電源を入れてください。

Cannot ERASE!

本機では消去できないフォーマットのCD-RW DISCです。
あるいは、通常の再生モード(Continue)以外でトラック消去しようとした場合にも表示されます。
→通常の再生モード(Continue)にしてから消去してください。

Erase Error!

消去中にエラーが発生しました。

Not Fs44.1k!

デジタル入力のサンプリング周波数が44.1kHzではありません。

➡ メニューでSRC ONを選択するとサンプリング周波数44.1kHz以外も録音できます。

PGM Full !

既に99曲プログラムされています。

Rec Error!

録音中にエラーが発生しました。

➡ DISCに問題がある可能性がありますので、別のDISCで録音をやり直してください。

System Err!

システムエラーです。

EJECT Error !

ディスク排出機構の故障か、ディスクの形状に問題があったため、DISCを取り出すことができません。

動作時のメッセージ

Complete

ファイナライズまたは消去などが完了しました。

Now OPC

最適な状態で録音するために、使用ディスクの特性に合わせてキャリブレーションしています。
（OPC = Optimum Power Control）

Now REPAIR

ディスクを修復中です。

PMA Writing

録音した内容をディスクに記録しています。
（PMA = Program Memory Area）

TOC Reading

TOC 情報を読み取り中です。

REC Standby

録音待機状態になりました。

Blank Disc

何も録音されていないDISCがセットされました。

NO DISC

DISCが挿入されていないときに表示します。

CD レコーダー部

再生ディスク：	CD-DA, CD-ROM ISO9660 LEVEL1/2Joliet format (MP3 ファイル)
記録ディスク：	CD-R, CD-R-DA,CD-RW, CD-RW-DA (CD-RW は High Speed に対応)
量子化ビット数：	16 bit リニア
サンプリング周波数：	44.1kHz
デジタル入力対応	
サンプリング周波数：	32kHz ～48kHz
再生周波数特性：	20～20kHz ± 0.8dB（再生時） ± 1.0dB（記録時）
S/N 比：	92dB（再生時） 88dB（記録時）
ダイナミックレンジ：	92dB（再生時） 88dB（記録時）
歪率：	0.006 %（再生時） 0.01 %（記録時）
チャンネルセパレーション：	80dB（再生時　1 kHz） 75dB（記録時　1 kHz）
ワウフラッター：	測定限界以下（0.001 %以下）

アナログ入力

LINE INPUTS 1 ：	RCA ピン
基準入力レベル：	− 10dBV（FS − 16dB）
最大入力レベル：	＋6dBV
入力インピーダンス：	50k Ω

アナログ出力

LINE OUTPUTS 1 ：	RCA ピン
基準出力レベル：	− 10 dBV（FS − 16 dB）
最大出力レベル：	＋6 dBV
出力インピーダンス：	600 Ω

デジタル入力

COAXIAL ：	RCA ピン IEC-60958 Type II
OPTICAL ：	TOSLINK IEC-60958 Type II

デジタル出力

COAXIAL ：	RCA ピン IEC-60958 Type II
OPTICAL ：	TOSLINK IEC-60958 Type II

カセットレコーダー部

トラック方式：	4 トラック 2 チャンネルステレオ
ヘッド構成：	録音／再生ヘッド × 1 （回転リバース式） 消去ヘッド × 1
使用テープ：	C - 60C - 90 タイプカセットテープ（メタルテープは再生のみ）
テープ速度：	4,76cm/sec
モーター：	DC サーボモーター × 1
ワウ・フラッター：	0.19%(W.RMS)
周波数特性（総合）：	
ノーマル：	50 ～ 10kHz ± 3dB
ハイポジション：	50 ～ 12.5kHz ± 3dB
S/N 比：	46dB （ドルビー OFF） 52dB （ドルビー ON）
早巻時間：	約 120 秒（C - 60 テープ）

入力

LINE INPUTS 2 ：	RCA ピン
基準入力レベル：	0.28V （− 11dBV）
入力インピーダンス：	50k Ω （入力インピーダンス 50k Ω以上）

出力

LINE OUTPUTS 2 ：	RCA ピン
基準出力レベル：	0.46V （− 6.7dBV）
出力インピーダンス：	1k Ω

PHONO アンプ部

MM カートリッジ

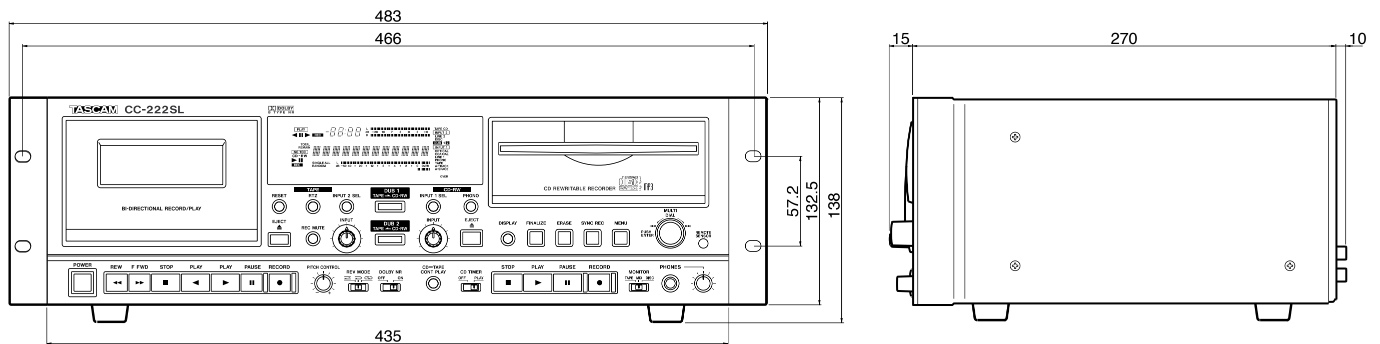
入力感度：	5.6mV
入力インピーダンス	50k Ω
S/N 比：	60dB

ヘッドホン出力：	6 φステレオ 10mW ＋ 10mW 32 Ω負荷

一般

電源：	100 VAC, 50 − 60 Hz
消費電力：	22 W
外形寸法： （幅×高さ×奥行き）	483 × 138 × 295mm
質量：	6.9 kg

寸法図



仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。

＊ドルビーノイズリダクションは、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

＊ドルビー、DOLBY及び（DD）はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

Memo

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。

タスカム営業技術　〒 180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00 ～ 17:00 です。

ティアック修理センター　〒 190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡 2-2-7



一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒 180-8550　東京都武蔵野市中町 3-7-3
http://www.tascam.jp/

Printed in China